

# 八千代市一般廃棄物処理基本計画

## 【資料編】

令和3年3月  
八千代市



# 目次

## 第1部 ごみ処理編

1	1人1日当たりのごみ排出量.....	1
2	推計にあたって.....	2
3	家庭系ごみ排出量の見込み.....	3
4	事業系ごみ排出量の見込み.....	14
5	1人1日当たりのその他排出量（不法投棄・ボランティア清掃）の見込み.....	15
6	1人1日当たりの集団回収量の見込み.....	16
7	ごみ排出量の見込み（令和元年度時点の状況が継続した場合）.....	19
8	目標値を達成した場合のごみ排出量.....	20
9	ごみ処理技術の動向.....	21
10	不燃・粗大ごみの処理方式.....	27
11	最終処分等の方式.....	28

## 第2部 生活排水処理編

1	八千代市污水適正処理構想.....	29
2	し尿汲み取り量及び浄化槽汚泥量の原単位.....	36
3	生活排水処理形態別人口の予測.....	37
4	し尿汲み取り量及び浄化槽汚泥量の予測.....	37



## 第1部 ごみ処理編



## 1 1人1日当たりのごみ排出量

平成27(2015)年度から令和元(2019)年度までの1人1日当たりのごみ排出量は以下のとおりです。

1人1日当たりのごみ排出量と1日当たりの事業系ごみ排出量の実績

区分	単位	実績				
		H27	H28	H29	H30	R元
人口	人	195,371	196,144	197,723	198,965	200,275
1人1日当たりのごみ総排出量	g/人日	809.0	799.2	782.9	765.9	774.5
ごみ排出量	g/人日	779.1	771.4	757.5	742.1	752.2
家庭系ごみ排出量	g/人日	605.6	600.6	591.7	581.1	585.8
可燃ごみ	g/人日	474.8	472.9	469.3	464.0	466.1
不燃ごみ	g/人日	12.3	11.4	10.7	10.8	11.7
有害ごみ	g/人日	0.9	0.9	0.8	0.8	0.8
粗大ごみ	g/人日	21.2	19.6	20.0	19.7	22.1
資源物	g/人日	96.3	95.8	90.8	85.8	85.0
紙・布類	g/人日	60.4	57.9	55.9	51.8	51.4
ペットボトル	g/人日	7.5	7.5	7.4	7.7	7.7
白色トレイ	g/人日	0.004	0.005	0.004	0.002	0.004
廃食用油	g/人日	0.04	0.04	0.04	0.05	0.04
缶・金属類	g/人日	9.0	8.9	8.8	8.3	8.5
びん類	g/人日	19.4	21.5	18.7	17.9	17.4
家庭系ごみ排出量(資源物を除く)	g/人日	509.2	504.8	500.8	495.3	500.7
事業系ごみ排出量	g/人日	172.8	170.0	165.2	160.3	165.7
その他排出量(不法投棄、ボランティア)	g/人日	0.7	0.9	0.7	0.7	0.7
集団回収量	g/人日	29.8	27.8	25.4	23.8	22.3
紙・布類	g/人日	29.6	27.6	25.2	23.6	22.1
金属類	g/人日	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
1日当たりの事業系ごみ排出量	t/日	33.8	33.3	32.7	31.9	33.2

※端数処理のため、内訳と合計が一致しないことがあります。

※家庭系粗大ごみの排出量を令和2年1月以降の計量方法に換算した値を記載しています。

## 2 推計にあたって

トレンド法に用いられる推計式にはいくつかの種類がありますが、ここでは一般的なごみ処理基本計画などで用いられる「ごみ処理施設構造指針解説」（（社）全国都市清掃会議編）に示されている推計式を参考とし、適当と考えられる以下の7推計式を採用します。

令和3（2021）年度以降のごみ排出量予測の算出にあたっては、平成27（2015）年度から令和元（2019）年度の排出量の実績を基に各推計式から推計を行います。

なお、新型コロナウイルス感染症は令和2（2020）年度のごみ排出量に大きな影響を及ぼしました。このことから、令和2（2020）年度のごみ排出量見込みの算出については、令和2（2020）年4月から11月までの実績値と、12月から3月までの過去5年の同月実績を基に各推計式により推計した予測値から、見込値の推計を行います。

将来予測に用いる推計式

推計式の名称	推 計 式	特 徴
一次傾向線	$y=a+b \cdot x$	最も基本となる式であり、傾きが一定で直線的に推移する式。直線的に増加又は減少することから、長期の予測では不自然な傾向となってしまうこともあり、予測値の妥当性を判断する必要がある。
二次傾向線	$y=a+b \cdot x+c \cdot x^2$	実績が緩やかな曲線を描く場合は、ある程度正確であるが、増減を繰り返す場合や、増加の後に減少になる場合などは傾向が極端に出る。
一次指数曲線	$y=a \cdot b^x$	実績値にばらつきが少ない場合に良く適合する式であり、多くの場合において実績値の増減率が徐々に大きくなることから、長期的な予測をする場合は、予測値の妥当性について判断する必要がある。
べき乗曲線	$y=a \cdot x^b$	一次指数式と同様に、徐々に増減率が大きくなっていく式であるが、推計式の特性上、実績値が減少傾向となっている場合には推計結果が得られないことがある。
ルート式	$y=a+b \cdot \sqrt{x}$	徐々に増減率が緩やかになっていくような曲線的推移を示す場合に用いられる予測式である。
対数式	$y=a+b \cdot \log x$	徐々に増減率が収束していくような推移となる推計式である。長期の予測でも実績値との乖離が少なく、比較的採用しやすい式である。
ロジスティック式	$y=k/(1+a \cdot e^{-bx})$	生物の固体数の変化を表すモデルとして考案された式であり、成長曲線とも呼ばれる。 一般的に、飽和値kはその環境下で存在できる最大値を示す定数であり、yが増加するにつれ、増加率は抑制され、最終的には飽和値に収束していく。

※a, b, c=実績値から定められる係数、y=人口又はごみ量等、x=時間係数



### 3 家庭系ごみ排出量の見込み

#### (1) 1人1日当たりの可燃ごみの予測結果

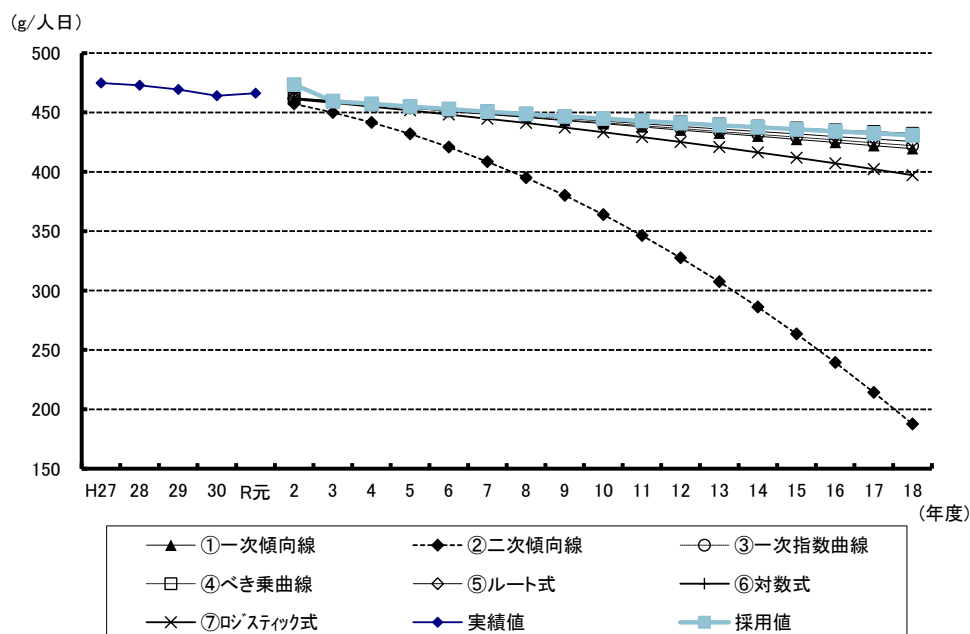
各推計式から推計した予測値は、いずれも減少傾向を示しました。

令和18(2036)年度時点における数値順位が最も高いものと最も低いものを除外した中で、相関順位が優位なものを採用値とします。

1人1日当たりの可燃ごみの予測結果

(g/人日)

年度	実績値	推計値							採用値	
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式		
2015	H 27	474.80								
2016	28	472.90								
2017	29	469.30								
2018	30	464.00								
2019	R 元	466.10								
2020	2		461.53	457.15	461.58	461.85	461.67	461.80	461.12	473.48
2021	3		458.90	450.03	459.01	459.55	459.18	459.45	458.08	459.45
2022	4		456.27	441.62	456.44	457.32	456.73	457.17	454.92	457.17
2023	5		453.64	431.90	453.90	455.17	454.31	454.95	451.65	454.95
2024	6		451.01	420.90	451.36	453.09	451.93	452.80	448.25	452.80
2025	7		448.38	408.59	448.84	451.07	449.59	450.71	444.72	450.71
2026	8		445.75	394.99	446.34	449.12	447.27	448.67	441.07	448.67
2027	9		443.12	380.09	443.84	447.22	444.98	446.68	437.28	446.68
2028	10		440.49	363.89	441.37	445.39	442.73	444.75	433.37	444.75
2029	11		437.86	346.40	438.90	443.60	440.50	442.86	429.32	442.86
2030	12		435.23	327.61	436.45	441.86	438.30	441.02	425.14	441.02
2031	13		432.60	307.52	434.02	440.18	436.12	439.22	420.82	439.22
2032	14		429.97	286.14	431.59	438.53	433.97	437.46	416.37	437.46
2033	15		427.34	263.45	429.18	436.93	431.85	435.74	411.78	435.74
2034	16		424.71	239.47	426.79	435.37	429.74	434.06	407.05	434.06
2035	17		422.08	214.20	424.40	433.85	427.66	432.42	402.19	432.42
2036	18		419.45	187.62	422.03	432.37	425.61	430.81	397.20	430.81
備考	推計式	$y=a+b \cdot x$	$y=a+b \cdot x+c \cdot x^2$	$y=a \cdot b^x$	$y=a \cdot x^b$	$y=a+b \cdot \sqrt{x}$	$y=a+b \cdot \log x$	$y=k / (1+a \cdot e^{-bx})$		
	定数 a	545.69000	0.00367	552.15082	811.73240	622.12723	726.71719	0.02719		
	定数 b	-2.63000	35.03958	0.99442	-0.16271	-28.36546	-176.00425	-0.05178		
	定数 c		-0.64856							
	収束値 k							527		
	相関係数	0.92143	0.82986	0.92204	0.92541	0.92323	0.92490	0.91663		
	相関順位	5	7	4	1	3	2	6		
数値順位	5	7	4	1	3	2	6			



(2) 1人1日当たりの不燃ごみの予測結果

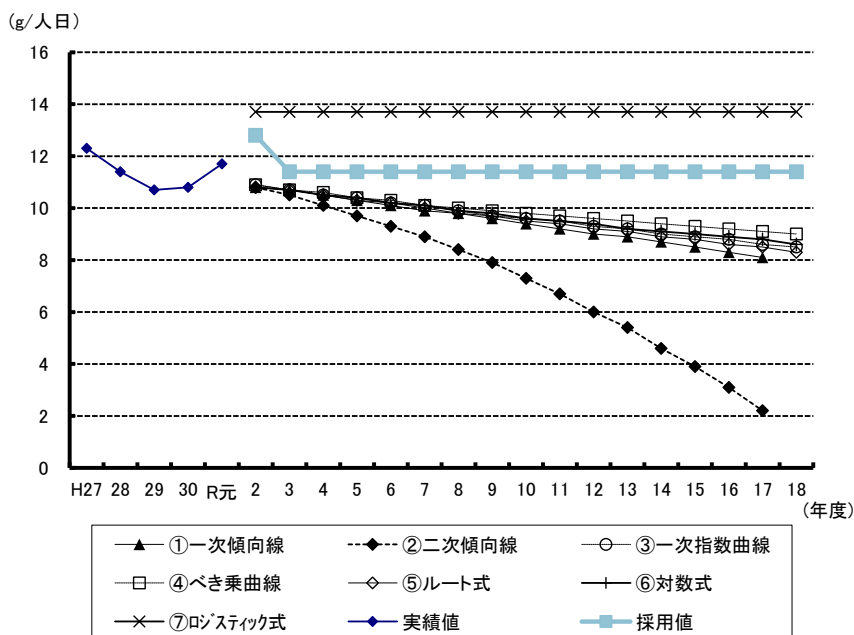
各推計式から推計した予測値は、いずれも減少傾向を示しましたが、過去5年の実績では、1人1日当たりの排出量が10g~12g程度で推移しています。

今後も多少の増減はあるものの概ね同程度での推移が予測されることから、令和3(2021)年度以降は過去5年実績の平均値で推移していくものと予測します。

1人1日当たりの不燃ごみの予測結果

(g/人日)

年度	実績値	推計値							採用値	
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式		
2015	H 27	12.30								
2016	28	11.40								
2017	29	10.70								
2018	30	10.80								
2019	R 元	11.70								
2020	2		10.84	10.75	10.85	10.85	10.84	10.84	13.65	12.83
2021	3		10.66	10.45	10.69	10.70	10.67	10.67	13.65	11.38
2022	4		10.48	10.12	10.52	10.55	10.49	10.51	13.65	11.38
2023	5		10.30	9.74	10.36	10.41	10.33	10.35	13.65	11.38
2024	6		10.12	9.33	10.20	10.27	10.16	10.20	13.65	11.38
2025	7		9.94	8.88	10.05	10.14	10.00	10.05	13.65	11.38
2026	8		9.76	8.39	9.89	10.02	9.84	9.91	13.65	11.38
2027	9		9.58	7.86	9.74	9.90	9.68	9.76	13.65	11.38
2028	10		9.40	7.29	9.59	9.78	9.52	9.63	13.65	11.38
2029	11		9.22	6.68	9.45	9.67	9.36	9.49	13.65	11.38
2030	12		9.04	6.04	9.30	9.56	9.21	9.36	13.65	11.38
2031	13		8.86	5.36	9.16	9.46	9.06	9.23	13.65	11.38
2032	14		8.68	4.63	9.02	9.36	8.91	9.11	13.65	11.38
2033	15		8.50	3.87	8.88	9.26	8.76	8.99	13.65	11.38
2034	16		8.32	3.08	8.75	9.16	8.61	8.87	13.65	11.38
2035	17		8.14	2.24	8.61	9.07	8.47	8.75	13.65	11.38
2036	18		7.96	1.36	8.48	8.98	8.32	8.64	13.65	11.38
備考	推計式	$y=a+b \cdot x$	$y=a+b \cdot x+c \cdot x^2$	$y=a \cdot b^x$	$y=a \cdot x^b$	$y=a+b \cdot \sqrt{x}$	$y=a+b \cdot \log x$	$y=k / (1+a \cdot e^{-bx})$		
	定数 a	16.60000	0.00111	17.76755	54.40588	22.02995	29.65741			
	定数 b	-0.18000	0.95119	0.98471	-0.46521	-1.97823	-12.50267			
	定数 c		-0.01922							
	収束値 k							14		
	相関係数	0.43053	0.30414	0.43861	0.45682	0.43956	0.44853	0.00000		
	相関順位	5	6	4	1	3	2	7		
数値順位	6	7	4	2	5	3	1			



### (3) 1人1日当たりの有害ごみの予測結果

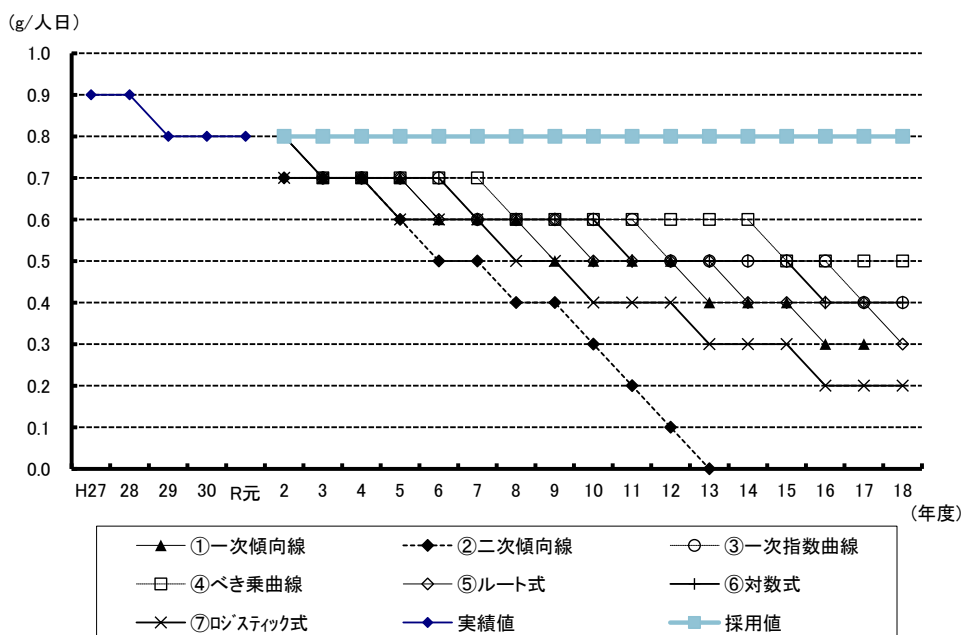
各推計式から推計した予測値は、いずれも減少傾向を示しましたが、過去5年の実績では、1人1日当たりの排出量が0.8g~0.9g程度で推移しています。

今後も概ね同程度での推移が予測されることから、令和3（2021）年度以降は過去5年実績の平均値で推移していくものと予測します。

#### 1人1日当たりの有害ごみの予測結果

(g/人日)

年度	実績値	推計値							採用値	
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式		
2015	H 27	0.90								
2016	28	0.90								
2017	29	0.80								
2018	30	0.80								
2019	R 元	0.80								
2020	2		0.75	0.74	0.75	0.76	0.75	0.75	0.74	0.82
2021	3		0.72	0.69	0.73	0.73	0.72	0.73	0.70	0.84
2022	4		0.69	0.65	0.70	0.71	0.70	0.70	0.67	0.84
2023	5		0.66	0.59	0.68	0.69	0.67	0.67	0.63	0.84
2024	6		0.63	0.54	0.65	0.67	0.64	0.65	0.59	0.84
2025	7		0.60	0.48	0.63	0.65	0.61	0.63	0.55	0.84
2026	8		0.57	0.41	0.61	0.63	0.59	0.60	0.51	0.84
2027	9		0.54	0.35	0.59	0.62	0.56	0.58	0.47	0.84
2028	10		0.51	0.27	0.57	0.60	0.54	0.56	0.43	0.84
2029	11		0.48	0.20	0.55	0.59	0.51	0.54	0.39	0.84
2030	12		0.45	0.12	0.53	0.57	0.48	0.52	0.36	0.84
2031	13		0.42	0.03	0.51	0.56	0.46	0.49	0.32	0.84
2032	14		0.39	-0.05	0.49	0.55	0.44	0.47	0.29	0.84
2033	15		0.36	-0.15	0.48	0.53	0.41	0.46	0.26	0.84
2034	16		0.33	-0.24	0.46	0.52	0.39	0.44	0.23	0.84
2035	17		0.30	-0.34	0.44	0.51	0.36	0.42	0.21	0.84
2036	18		0.27	-0.45	0.43	0.50	0.34	0.40	0.18	0.84
備考	推計式	$y=a+b\cdot x$	$y=a+b\cdot x+c\cdot x^2$	$y=a\cdot b^x$	$y=a\cdot x^b$	$y=a+b\cdot\sqrt{x}$	$y=a+b\cdot\log x$	$y=k/(1+a\cdot e^{-bx})$		
	定数 a	1.71000	0.00003	2.33657	26.74697	2.58332	3.77969	0.00561		
	定数 b	-0.03000	0.08776	0.96528	-1.02862	-0.32382	-2.01089	-0.14208		
	定数 c		-0.00202							
	収束値 k							1		
	相関係数	0.86603	0.84351	0.87086	0.87495	0.86842	0.87069	0.85557		
	相関順位	5	7	2	1	4	3	6		
数値順位	5	7	2	1	4	3	6			



(4) 1人1日当たりの粗大ごみの予測結果

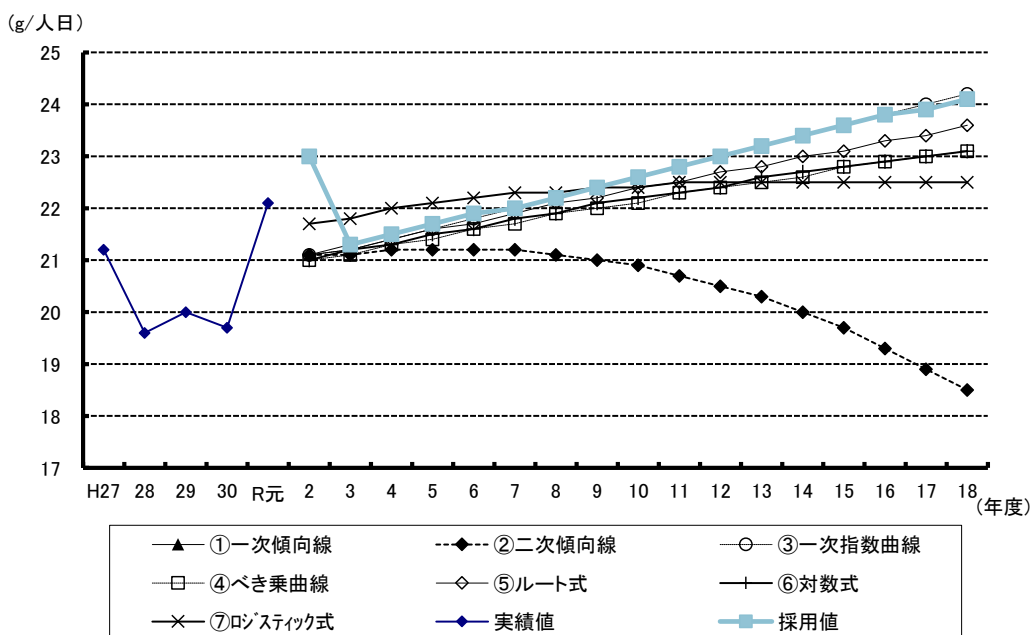
各推計式から推計した予測値は、二次傾向線を除き増加傾向を示しました。

令和18(2036)年度時点における数値順位が最も高いものと最も低いものを除外した中で、相関順位が優位なものを採用値とします。

1人1日当たりの粗大ごみの予測結果

(g/人日)

年度	実績値	推計値							採用値	
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式		
2015	H 27	21.20								
2016	28	19.60								
2017	29	20.00								
2018	30	19.70								
2019	R 元	22.10								
2020	2		21.09	21.05	21.05	20.99	21.06	21.03	21.66	23.04
2021	3		21.28	21.14	21.23	21.14	21.23	21.19	21.84	21.28
2022	4		21.47	21.21	21.42	21.29	21.40	21.34	21.98	21.47
2023	5		21.66	21.24	21.61	21.44	21.57	21.49	22.10	21.66
2024	6		21.85	21.23	21.80	21.59	21.74	21.64	22.19	21.85
2025	7		22.04	21.19	22.00	21.73	21.90	21.78	22.27	22.04
2026	8		22.23	21.12	22.19	21.86	22.06	21.91	22.33	22.23
2027	9		22.42	21.01	22.39	22.00	22.22	22.05	22.38	22.42
2028	10		22.61	20.87	22.59	22.13	22.38	22.18	22.42	22.61
2029	11		22.80	20.70	22.79	22.26	22.54	22.30	22.45	22.80
2030	12		22.99	20.49	22.99	22.39	22.69	22.43	22.47	22.99
2031	13		23.18	20.25	23.19	22.52	22.84	22.55	22.49	23.18
2032	14		23.37	19.97	23.40	22.64	22.99	22.67	22.51	23.37
2033	15		23.56	19.66	23.61	22.76	23.14	22.78	22.52	23.56
2034	16		23.75	19.32	23.81	22.88	23.29	22.90	22.53	23.75
2035	17		23.94	18.94	24.03	23.00	23.43	23.01	22.54	23.94
2036	18		24.13	18.53	24.24	23.11	23.57	23.11	22.55	24.13
備考	推計式	$y=a+b\cdot x$	$y=a+b\cdot x+c\cdot x^2$	$y=a\cdot b^x$	$y=a\cdot x^b$	$y=a+b\cdot\sqrt{x}$	$y=a+b\cdot\log x$	$y=k/(1+a\cdot e^{-bx})$		
	定数 a	15.01000	0.00180	15.86936	9.20204	9.87440	3.23052	57.66304		
	定数 b	0.19000	1.20121	1.00886	0.23792	1.97743	11.82688	0.22566		
	定数 c		-0.01699							
	収束値 k							23		
	相関係数	0.27574	0.19162	0.28041	0.26180	0.26660	0.25744	0.17537		
	相関順位	2	6	1	4	3	5	7		
数値順位	2	7	1	4	3	5	6			



(5) 1人1日当たりの資源物の予測結果

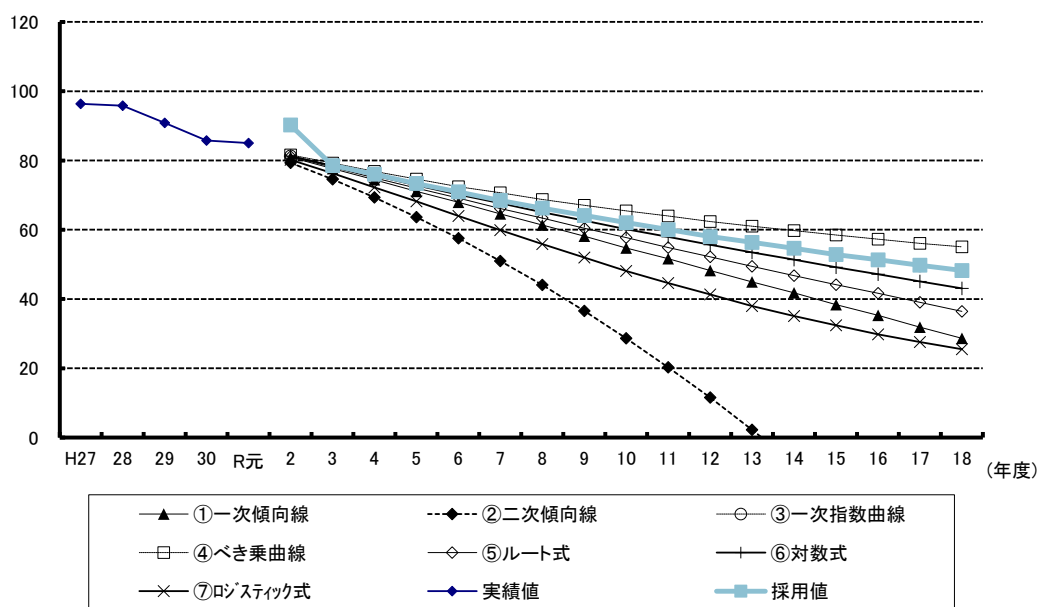
平成27(2015)年度以降の1人1日当たり排出量は減少傾向となっています。品目ごとの動向に違いがあると見込まれることから、品目ごとに予測値を推計し、その合計を資源物の採用値とします。

1人1日当たりの資源物の予測結果

(g/人日)

年度	実績値	推計値							採用値	
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式		
2015	H 27	96.34								
2016	28	95.84								
2017	29	90.84								
2018	30	85.75								
2019	R 元	85.04								
2020	2		80.95	79.34	81.34	81.64	81.14	81.24	80.20	90.24
2021	3		77.65	74.55	78.55	79.25	78.05	78.45	76.30	78.54
2022	4		74.45	69.35	75.95	76.85	74.95	75.65	72.20	76.04
2023	5		71.05	63.65	73.35	74.65	72.05	72.85	68.20	73.34
2024	6		67.95	57.55	70.85	72.45	69.15	70.15	64.00	70.94
2025	7		64.55	50.95	68.45	70.65	66.15	67.65	59.90	68.44
2026	8		61.35	44.05	66.25	68.75	63.35	65.05	55.90	66.24
2027	9		58.15	36.55	64.05	67.05	60.45	62.65	52.00	64.14
2028	10		54.75	28.65	61.95	65.45	57.75	60.15	48.10	62.04
2029	11		51.65	20.25	59.95	63.95	54.85	57.95	44.60	60.04
2030	12		48.26	11.55	57.96	62.35	52.15	55.65	41.30	58.04
2031	13		44.96	2.25	56.16	61.05	49.45	53.45	38.00	56.34
2032	14		41.76	-7.35	54.46	59.76	46.76	51.35	35.10	54.64
2033	15		38.36	-17.55	52.76	58.46	44.16	49.15	32.40	52.84
2034	16		35.26	-28.05	51.16	57.26	41.66	47.16	29.80	51.34
2035	17		31.86	-39.05	49.56	56.06	39.06	45.06	27.60	49.74
2036	18		28.66	-50.45	48.06	55.06	36.46	43.06	25.50	48.24
備考	推計式	$y=a+b \cdot x$	$y=a+b \cdot x+c \cdot x^2$	$y=a \cdot b^x$	$y=a \cdot x^b$	$y=a+b \cdot \sqrt{x}$	$y=a+b \cdot \log x$	$y=k / (1+a \cdot e^{-bx})$		
	定数 a	185.57328	0.00062	258.04592	3042.00666	280.17394	409.20713	0.00616		
	定数 b	-3.26922	9.55038	0.96457	-1.04375	-35.18266	-217.82985	-0.13920		
	定数 c		-0.22087							
	収束値 k								123	
	相関係数	0.96492	0.96285	0.96436	0.96316	0.96469	0.96433	0.96482		
	相関順位	1	7	4	6	3	5	2		
数値順位	5	7	2	1	4	3	6			

(g/人日)



①1人1日当たりの紙・布類の予測結果

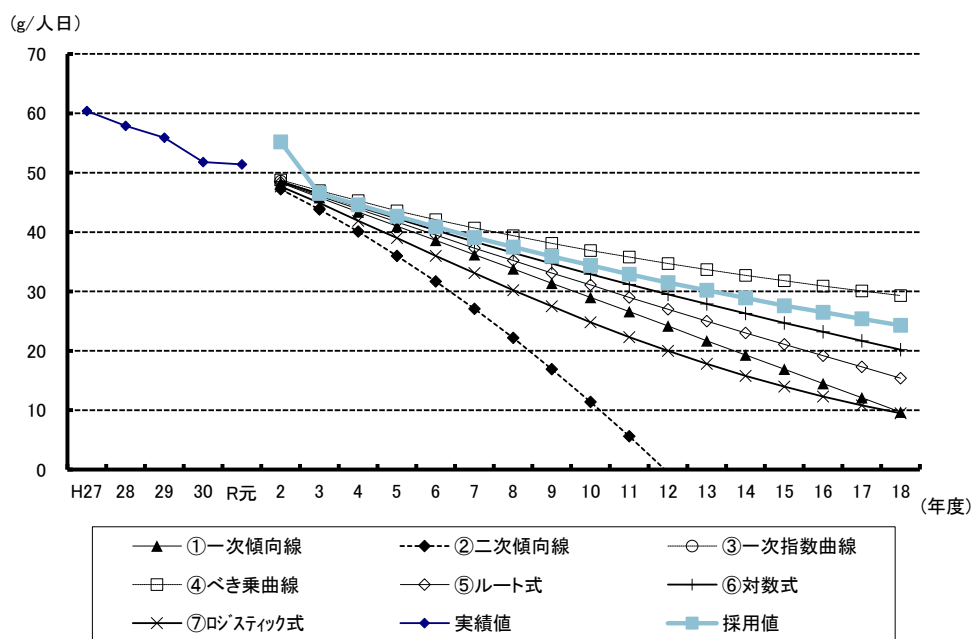
各推計式から推計した予測値は、いずれも減少傾向を示しました。

令和18（2036）年度時点における数値順位が最も高いものと最も低いものを除外した中で、相関順位が優位なものを採用値とします。

1人1日当たりの紙・布類の予測結果

(g/人日)

年度	実績値	推計値							採用値	
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式		
2015	H 27	60.40								
2016	28	57.90								
2017	29	55.90								
2018	30	51.80								
2019	R 元	51.40								
2020	2		48.30	47.20	48.60	48.80	48.40	48.50	47.70	55.15
2021	3		45.80	43.80	46.50	47.00	46.10	46.40	44.90	46.50
2022	4		43.40	40.10	44.60	45.30	43.90	44.30	41.90	44.60
2023	5		41.00	36.00	42.70	43.60	41.70	42.30	39.00	42.70
2024	6		38.60	31.70	40.90	42.10	39.50	40.30	36.00	40.90
2025	7		36.20	27.10	39.10	40.70	37.30	38.40	33.10	39.10
2026	8		33.80	22.20	37.50	39.40	35.20	36.50	30.20	37.50
2027	9		31.40	16.90	35.90	38.10	33.10	34.70	27.50	35.90
2028	10		29.00	11.40	34.40	36.90	31.10	32.90	24.80	34.40
2029	11		26.60	5.60	32.90	35.80	29.00	31.20	22.30	32.90
2030	12		24.20	-0.50	31.50	34.70	27.00	29.50	20.00	31.50
2031	13		21.70	-7.00	30.20	33.70	25.00	27.90	17.80	30.20
2032	14		19.30	-13.70	28.90	32.70	23.00	26.30	15.80	28.90
2033	15		16.90	-20.70	27.60	31.80	21.10	24.70	14.00	27.60
2034	16		14.50	-28.00	26.50	30.90	19.20	23.20	12.30	26.50
2035	17		12.10	-35.60	25.40	30.10	17.30	21.70	10.80	25.40
2036	18		9.70	-43.50	24.30	29.30	15.40	20.20	9.50	24.30
備考	推計式	$y=a+b\cdot x$	$y=a+b\cdot x+c\cdot x^2$	$y=a\cdot b^x$	$y=a\cdot x^b$	$y=a+b\cdot \sqrt{x}$	$y=a+b\cdot \log x$	$y=k/(1+a\cdot e^{-bx})$		
	定数 a	125.37000	0.00100	194.95022	3819.49582	195.23487	290.66022	0.00495		
	定数 b	-2.41000	6.24215	0.95753	-1.25778	-25.95955	-160.87513	-0.15182		
	定数 c		-0.14893							
	収束値 k							78		
	相関係数	0.98039	0.97245	0.98187	0.98245	0.98105	0.98160	0.97712		
	相関順位	5	7	2	1	4	3	6		
数値順位	5	7	2	1	4	3	6			



## ②1人1日当たりのペットボトルの予測結果

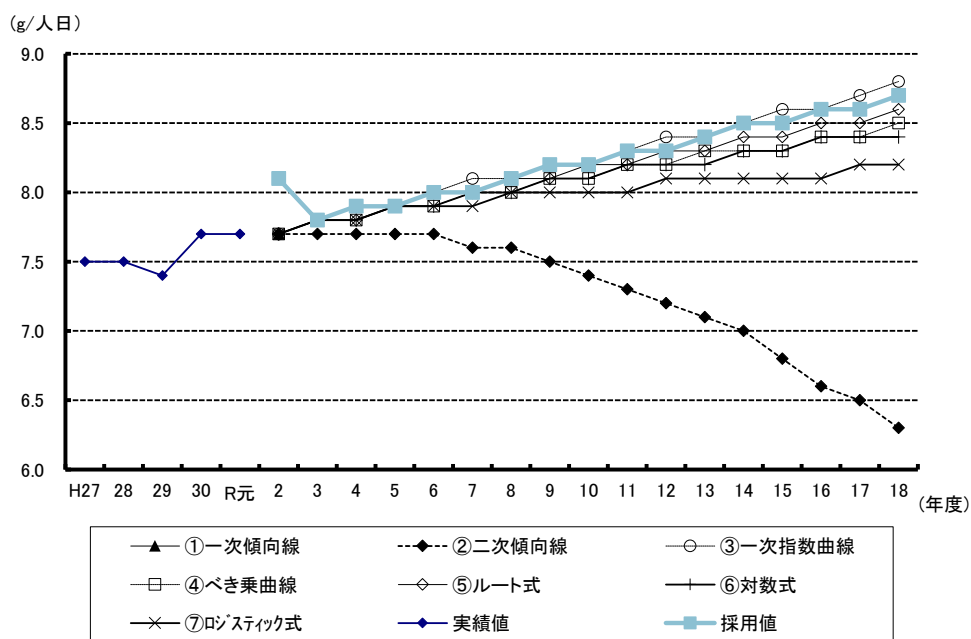
各推計式から推計した予測値は、二次傾向線を除き、増加傾向を示しました。

令和18（2036）年度時点における数値順位が最も高いものと最も低いものを除外した中で、相関順位が優位なものを採用値とします。

### 1人1日当たりのペットボトルの予測結果

(g/人日)

年度	実績値	推計値							採用値	
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式		
2015	H 27	7.50								
2016	28	7.50								
2017	29	7.40								
2018	30	7.70								
2019	R 元	7.70								
2020	2		7.70	7.70	7.70	7.70	7.70	7.70	7.70	8.10
2021	3		7.80	7.70	7.80	7.80	7.80	7.80	7.80	7.80
2022	4		7.90	7.70	7.90	7.80	7.80	7.80	7.80	7.90
2023	5		7.90	7.70	7.90	7.90	7.90	7.90	7.90	7.90
2024	6		8.00	7.70	8.00	7.90	8.00	7.90	7.90	8.00
2025	7		8.00	7.60	8.10	8.00	8.00	8.00	7.90	8.00
2026	8		8.10	7.60	8.10	8.00	8.10	8.00	8.00	8.10
2027	9		8.20	7.50	8.20	8.10	8.10	8.10	8.00	8.20
2028	10		8.20	7.40	8.20	8.10	8.20	8.10	8.00	8.20
2029	11		8.30	7.30	8.30	8.20	8.20	8.20	8.00	8.30
2030	12		8.30	7.20	8.40	8.20	8.30	8.20	8.10	8.30
2031	13		8.40	7.10	8.40	8.30	8.30	8.20	8.10	8.40
2032	14		8.50	7.00	8.50	8.30	8.40	8.30	8.10	8.50
2033	15		8.50	6.80	8.60	8.30	8.40	8.30	8.10	8.50
2034	16		8.60	6.60	8.60	8.40	8.50	8.40	8.10	8.60
2035	17		8.60	6.50	8.70	8.40	8.50	8.40	8.20	8.60
2036	18		8.70	6.30	8.80	8.50	8.60	8.40	8.20	8.70
備考	推計式	$y=a+b \cdot x$	$y=a+b \cdot x+c \cdot x^2$	$y=a \cdot b^x$	$y=a \cdot x^b$	$y=a+b \cdot \sqrt{x}$	$y=a+b \cdot \log x$	$y=\frac{k}{(1+a \cdot e^{-bx})}$		
	定数 a	5.82000	0.00012	6.01216	3.53411	4.10336	1.78150	1.50238		
	定数 b	0.06000	0.46060	1.00793	0.22586	0.64207	3.95278	0.09491		
	定数 c		-0.00688							
	収束値 k							8		
	相関係数	0.70711	0.64896	0.70896	0.70065	0.70296	0.69872	0.68774		
	相関順位 数値順位	2 2	7 7	1 1	4 4	3 3	5 5	6 6		



### ③ 1人1日当たりの白色トレイの予測結果

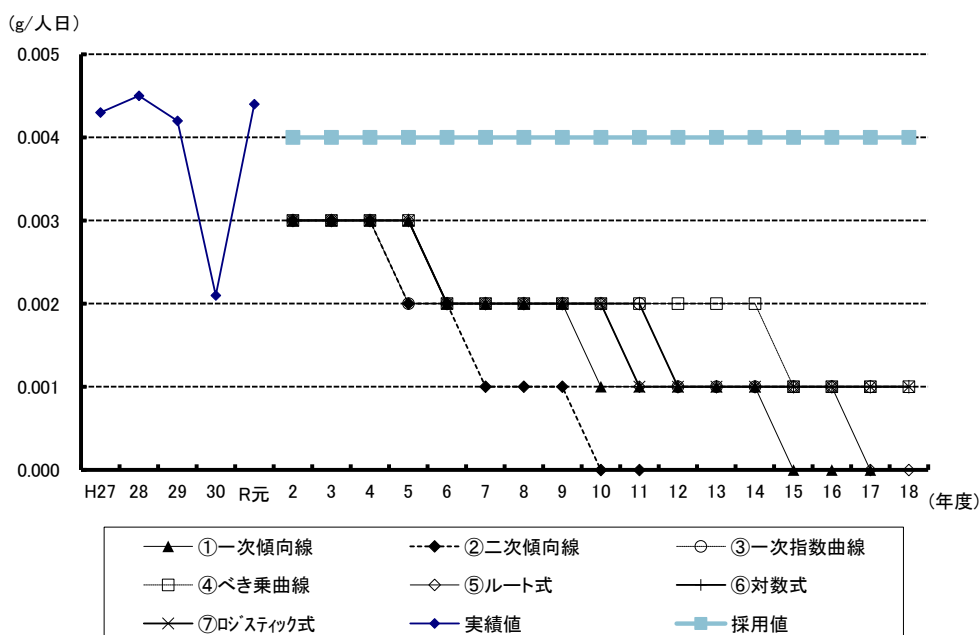
各推計式から推計した予測値は、いずれも減少傾向を示しましたが、過去5年の実績では、1人1日当たりの排出量が0.004g程度で推移しています。

今後も概ね同程度での推移が予測されることから、令和3（2021）年度以降は過去5年実績の平均値で推移していくものと予測します。

### 1人1日当たりの白色トレイの予測結果

(g/人日)

年度	実績値	推計値							採用値	
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式		
2015	H 27	0.0043								
2016	28	0.0045								
2017	29	0.0042								
2018	30	0.0021								
2019	R 元	0.0044								
2020	2		0.0030	0.0030	0.0030	0.0030	0.0030	0.0030	0.0030	0.0040
2021	3		0.0030	0.0030	0.0030	0.0030	0.0030	0.0030	0.0030	0.0040
2022	4		0.0030	0.0030	0.0030	0.0030	0.0030	0.0030	0.0030	0.0040
2023	5		0.0030	0.0020	0.0020	0.0030	0.0030	0.0030	0.0030	0.0040
2024	6		0.0020	0.0020	0.0020	0.0020	0.0020	0.0020	0.0020	0.0040
2025	7		0.0020	0.0010	0.0020	0.0020	0.0020	0.0020	0.0020	0.0040
2026	8		0.0020	0.0010	0.0020	0.0020	0.0020	0.0020	0.0020	0.0040
2027	9		0.0020	0.0010	0.0020	0.0020	0.0020	0.0020	0.0020	0.0040
2028	10		0.0010	0.0000	0.0020	0.0020	0.0020	0.0020	0.0020	0.0040
2029	11		0.0010	0.0000	0.0020	0.0020	0.0010	0.0020	0.0010	0.0040
2030	12		0.0010	-0.0010	0.0010	0.0020	0.0010	0.0010	0.0010	0.0040
2031	13		0.0010	-0.0010	0.0010	0.0020	0.0010	0.0010	0.0010	0.0040
2032	14		0.0010	-0.0020	0.0010	0.0020	0.0010	0.0010	0.0010	0.0040
2033	15		0.0000	-0.0030	0.0010	0.0010	0.0010	0.0010	0.0010	0.0040
2034	16		0.0000	-0.0030	0.0010	0.0010	0.0010	0.0010	0.0010	0.0040
2035	17		0.0000	-0.0040	0.0010	0.0010	0.0000	0.0010	0.0010	0.0040
2036	18		0.0000	-0.0040	0.0010	0.0010	0.0000	0.0010	0.0010	0.0040
備考	推計式	$y=a+b \cdot x$	$y=a+b \cdot x+c \cdot x^2$	$y=a \cdot b^x$	$y=a \cdot x^b$	$y=a+b \cdot \sqrt{x}$	$y=a+b \cdot \log x$	$y=k / (1+a \cdot e^{-bx})$		
	定数 a	0.01028	0.00000	0.03000	4.55661	0.01676	0.02572	0.00476		
	定数 b	-0.00022	0.00048	0.93089	-2.10928	-0.00239	-0.01493	-0.15948		
	定数 c		-0.00001							
	収束値 k							0		
	相関係数	0.34358	0.32166	0.35589	0.36068	0.34666	0.34962	0.33444		
相関順位	5	7	2	1	4	3	6			
数値順位	5	7	1	1	5	1	1			





#### ④ 1人1日当たりの廃食用油の予測結果

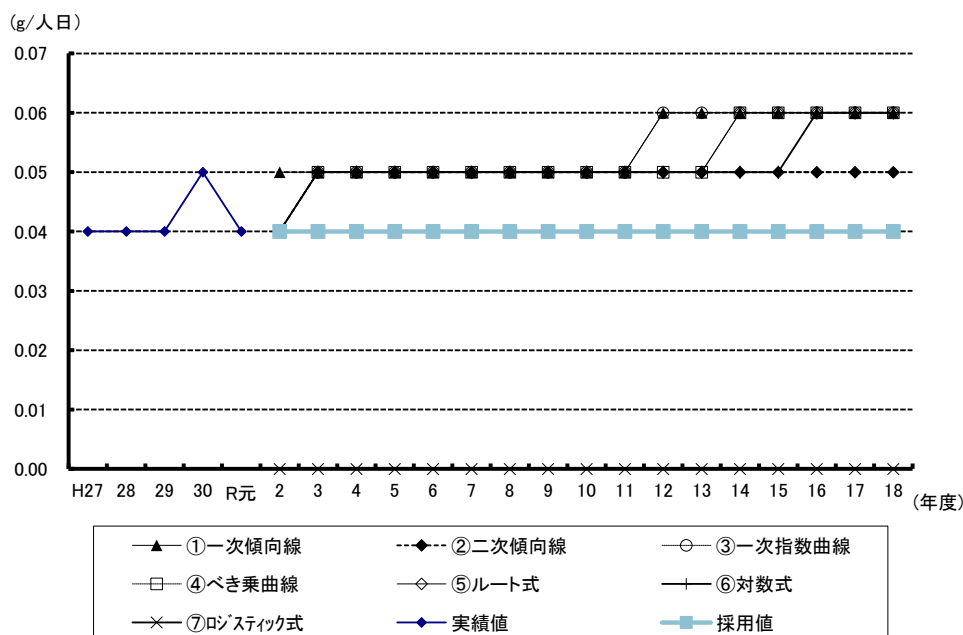
各推計式から推計した予測値は、いずれも増加傾向を示しましたが、過去5年の実績では、1人1日当たりの排出量が0.04g程度で推移しています。

今後も概ね同程度での推移が予測されることから、令和3（2021）年度以降は過去5年実績の平均値で推移していくものと予測します。

#### 1人1日当たりの廃食用油の予測結果

(g/人日)

年度	実績値	推計値							採用値	
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式		
2015	H 27	0.04								
2016	28	0.04								
2017	29	0.04								
2018	30	0.05								
2019	R 元	0.04								
2020	2		0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.00	0.04
2021	3		0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.00	0.04
2022	4		0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.00	0.04
2023	5		0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.00	0.04
2024	6		0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.00	0.04
2025	7		0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.00	0.04
2026	8		0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.00	0.04
2027	9		0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.00	0.04
2028	10		0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.00	0.04
2029	11		0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.00	0.04
2030	12		0.06	0.05	0.06	0.05	0.05	0.05	0.00	0.04
2031	13		0.06	0.05	0.06	0.05	0.05	0.05	0.00	0.04
2032	14		0.06	0.05	0.06	0.06	0.06	0.05	0.00	0.04
2033	15		0.06	0.05	0.06	0.06	0.06	0.05	0.00	0.04
2034	16		0.06	0.05	0.06	0.06	0.06	0.06	0.00	0.04
2035	17		0.06	0.05	0.06	0.06	0.06	0.06	0.00	0.04
2036	18		0.06	0.05	0.06	0.06	0.06	0.06	0.00	0.04
備考	推計式	$y=a+b\cdot x$	$y=a+b\cdot x+c\cdot x^2$	$y=a\cdot b^x$	$y=a\cdot x^b$	$y=a+b\cdot \sqrt{x}$	$y=a+b\cdot \log x$			
	定数 a	0.01300	0.00000	0.02190	0.00459	-0.01643	-0.05704			
	定数 b	0.00100	0.00193	1.02257	0.65652	0.01085	0.06775			
	定数 c		-0.00002							
	収束値 k									
	相関係数	0.35355	0.35958	0.34951	0.35556	0.35646	0.35925			
	相関順位	5	1	6	4	3	2	-		
数値順位	1	6	1	1	1	1	-			



⑤ 1人1日当たりの缶・金属類の予測結果

各推計式から推計した予測値は、いずれも減少傾向を示しました。

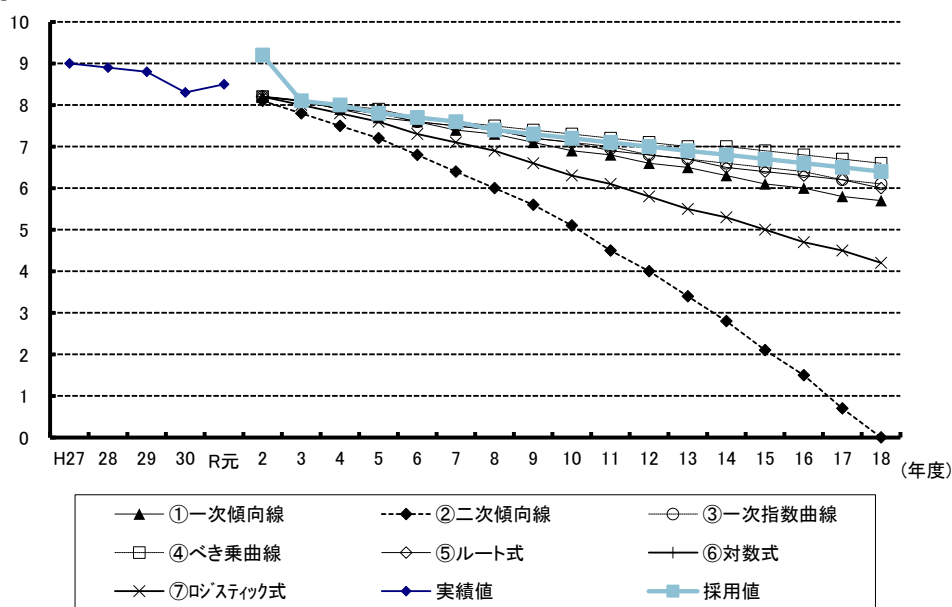
令和18（2036）年度時点における数値順位が最も高いものと最も低いものを除外した中で、相関順位が優位なものを採用値とします。

1人1日当たりの缶・金属類の予測結果

(g/人日)

年度	実績値	推計値							採用値	
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式		
2015	H 27	9.00								
2016	28	8.90								
2017	29	8.80								
2018	30	8.30								
2019	R 元	8.50								
2020	2		8.20	8.10	8.20	8.20	8.20	8.20	8.20	9.15
2021	3		8.10	7.80	8.10	8.10	8.10	8.10	8.10	8.10
2022	4		7.90	7.50	7.90	8.00	7.90	8.00	7.80	8.00
2023	5		7.70	7.20	7.80	7.90	7.80	7.80	7.60	7.80
2024	6		7.60	6.80	7.60	7.70	7.60	7.70	7.30	7.70
2025	7		7.40	6.40	7.50	7.60	7.50	7.60	7.10	7.60
2026	8		7.30	6.00	7.40	7.50	7.40	7.40	6.90	7.40
2027	9		7.10	5.60	7.20	7.40	7.20	7.30	6.60	7.30
2028	10		6.90	5.10	7.10	7.30	7.10	7.20	6.30	7.20
2029	11		6.80	4.50	7.00	7.20	6.90	7.10	6.10	7.10
2030	12		6.60	4.00	6.80	7.10	6.80	7.00	5.80	7.00
2031	13		6.50	3.40	6.70	7.00	6.70	6.90	5.50	6.90
2032	14		6.30	2.80	6.60	7.00	6.50	6.80	5.30	6.80
2033	15		6.10	2.10	6.50	6.90	6.40	6.70	5.00	6.70
2034	16		6.00	1.50	6.40	6.80	6.30	6.60	4.70	6.60
2035	17		5.80	0.70	6.20	6.70	6.20	6.50	4.50	6.50
2036	18		5.70	0.00	6.10	6.60	6.00	6.40	4.20	6.40
備考	推計式	$y=a+b\cdot x$	$y=a+b\cdot x+c\cdot x^2$	$y=a\cdot b^x$	$y=a\cdot x^b$	$y=a+b\cdot \sqrt{x}$	$y=a+b\cdot \log x$	$y=k/(1+a\cdot e^{-bx})$		
	定数 a	13.34000	0.00010	14.83214	52.47840	17.98086	24.32158	0.01102		
	定数 b	-0.16000	0.76071	0.98176	-0.53401	-1.72393	-10.68595	-0.10277		
	定数 c		-0.01585							
	収束値 k							11		
	相関係数	0.86772	0.85095	0.86864	0.86982	0.86855	0.86923	0.86341		
	相関順位	5	7	3	1	4	2	6		
数値順位	5	7	3	1	4	2	6			

(g/人日)



⑥ 1人1日当たりのびん類の予測結果

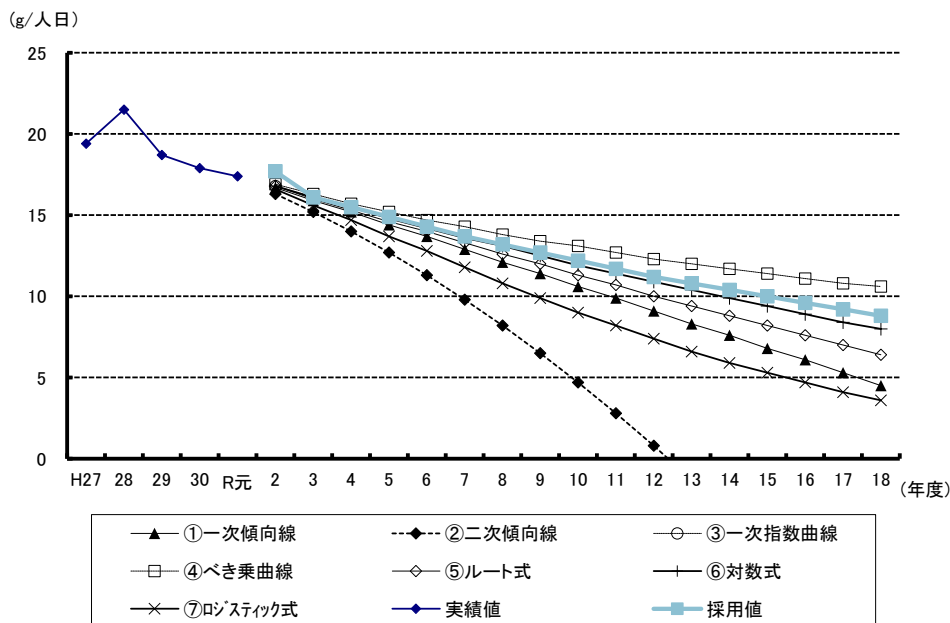
各推計式から推計した予測値は、いずれも減少傾向を示しました。平成28(2016)年度に一度増加したものの、平成29(2017)年度から令和元(2019)年度までは減少しています。

今後も減少傾向での推移が予測されることから、過去5年の傾向と類似した一次指数曲線を採用します。

1人1日当たりのびん類の予測結果

(g/人日)

年度	実績値	推計値							採用値	
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式		
2015	H 27	19.40								
2016	28	21.50								
2017	29	18.70								
2018	30	17.90								
2019	R 元	17.40								
2020	2		16.70	16.30	16.80	16.90	16.80	16.80	16.60	17.70
2021	3		15.90	15.20	16.10	16.30	16.00	16.10	15.60	16.10
2022	4		15.20	14.00	15.50	15.70	15.30	15.50	14.70	15.50
2023	5		14.40	12.70	14.90	15.20	14.60	14.80	13.70	14.90
2024	6		13.70	11.30	14.30	14.70	14.00	14.20	12.80	14.30
2025	7		12.90	9.80	13.70	14.30	13.30	13.60	11.80	13.70
2026	8		12.10	8.20	13.20	13.80	12.60	13.10	10.80	13.20
2027	9		11.40	6.50	12.70	13.40	12.00	12.50	9.90	12.70
2028	10		10.60	4.70	12.20	13.10	11.30	11.90	9.00	12.20
2029	11		9.90	2.80	11.70	12.70	10.70	11.40	8.20	11.70
2030	12		9.10	0.80	11.20	12.30	10.00	10.90	7.40	11.20
2031	13		8.30	-1.30	10.80	12.00	9.40	10.40	6.60	10.80
2032	14		7.60	-3.50	10.40	11.70	8.80	9.90	5.90	10.40
2033	15		6.80	-5.80	10.00	11.40	8.20	9.40	5.30	10.00
2034	16		6.10	-8.20	9.60	11.10	7.60	8.90	4.70	9.60
2035	17		5.30	-10.70	9.20	10.80	7.00	8.40	4.10	9.20
2036	18		4.50	-13.30	8.80	10.60	6.40	8.00	3.60	8.80
備考	推計式	$y=a+b\cdot x$	$y=a+b\cdot x+c\cdot x^2$	$y=a\cdot b^x$	$y=a\cdot x^b$	$y=a+b\cdot \sqrt{x}$	$y=a+b\cdot \log x$	$y=k/(1+a\cdot e^{-bx})$		
	定数 a	41.02000	-0.00060	60.52837	913.75506	62.85451	92.47514	0.00516		
	定数 b	-0.76000	2.08451	0.96071	-1.15176	-8.14972	-50.27438	-0.14783		
	定数 c		-0.04919							
	収束値 k							26		
	相関係数	0.75002	0.76803	0.74331	0.73673	0.74716	0.74416	0.76034		
	相関順位 数値順位	3 5	1 7	6 2	7 1	4 4	5 3	2 6		



#### 4 事業系ごみ排出量の見込み

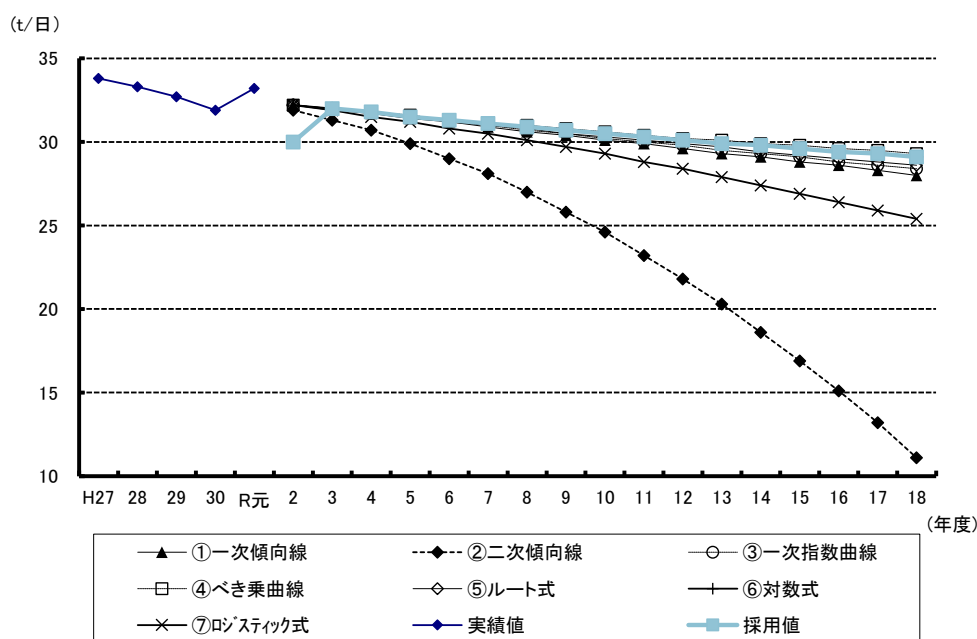
各推計式から推計した予測値は、いずれも減少傾向を示しました。

令和18(2036)年度時点における数値順位が最も高いものと最も低いものを除外した中で、相関順位が優位なものを採用値とします。

1日当たりの事業系ごみ排出量の予測結果

(t/日)

年度	実績値	推計値							採用値	
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式		
2015	H 27	33.80								
2016	28	33.30								
2017	29	32.70								
2018	30	31.90								
2019	R 元	33.20								
2020	2		32.20	31.91	32.20	32.22	32.21	32.21	32.17	30.03
2021	3		31.94	31.33	31.95	31.99	31.96	31.98	31.86	31.98
2022	4		31.68	30.65	31.70	31.76	31.71	31.75	31.53	31.75
2023	5		31.42	29.88	31.45	31.55	31.47	31.52	31.19	31.52
2024	6		31.16	29.01	31.20	31.34	31.24	31.31	30.83	31.31
2025	7		30.90	28.05	30.96	31.14	31.00	31.10	30.46	31.10
2026	8		30.64	26.99	30.72	30.95	30.77	30.89	30.08	30.89
2027	9		30.38	25.83	30.48	30.76	30.54	30.69	29.68	30.69
2028	10		30.12	24.58	30.24	30.58	30.32	30.50	29.26	30.50
2029	11		29.86	23.24	30.00	30.41	30.09	30.31	28.83	30.31
2030	12		29.60	21.80	29.76	30.24	29.88	30.12	28.38	30.12
2031	13		29.34	20.26	29.53	30.07	29.66	29.94	27.91	29.94
2032	14		29.08	18.63	29.30	29.91	29.44	29.76	27.43	29.76
2033	15		28.82	16.90	29.07	29.76	29.23	29.59	26.94	29.59
2034	16		28.56	15.08	28.84	29.60	29.02	29.42	26.43	29.42
2035	17		28.30	13.16	28.61	29.46	28.81	29.26	25.91	29.26
2036	18		28.04	11.14	28.39	29.31	28.61	29.09	25.38	29.09
備考	推計式	$y=a+b \cdot x$	$y=a+b \cdot x+c \cdot x^2$	$y=a \cdot b^x$	$y=a \cdot x^b$	$y=a+b \cdot \sqrt{x}$	$y=a+b \cdot \log x$	$y=k / (1+a \cdot e^{-bx})$		
	定数 a	40.52000	0.00097	41.43609	72.26534	48.21409	58.87743	0.02064		
	定数 b	-0.26000	2.52688	0.99215	-0.23310	-2.82974	-17.71515	-0.06559		
	定数 c		-0.04781							
	収束値 k							38		
	相関係数	0.57174	0.41555	0.57467	0.58715	0.57808	0.58430	0.55282		
	相関順位	5	7	4	1	3	2	6		
数値順位	5	7	4	1	3	2	6			



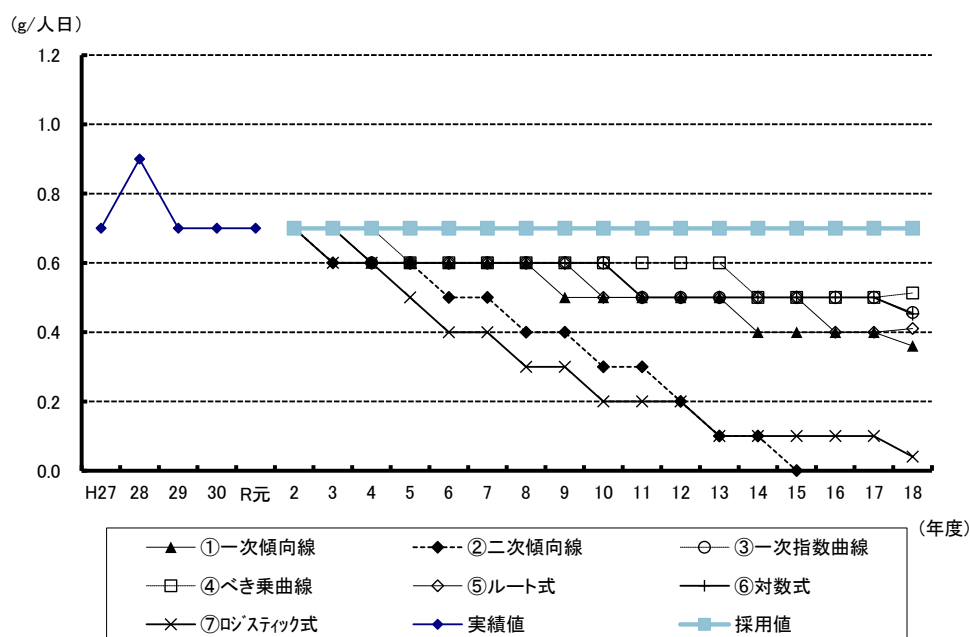
## 5 1人1日当たりのその他排出量（不法投棄・ボランティア清掃）の見込み

各推計式から推計した予測値は、いずれも減少傾向を示しましたが、過去5年の実績では、1人1日当たりの排出量が0.7g~0.9gで推移しています。

今後も多少の増減はあるものの概ね同程度での推移が予測されることから、令和3（2021）年度以降は過去5年実績の平均値で推移していくものと予測します。

### 1人1日当たりのその他排出量（不法投棄・ボランティア清掃）の予測結果（g/人日）

年度	実績値	推計値							採用値
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式	
2015	H 27	0.70							
2016	28	0.90							
2017	29	0.70							
2018	30	0.70							
2019	R 元	0.70							
2020	2		0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70
2021	3		0.70	0.60	0.70	0.70	0.70	0.70	0.60
2022	4		0.60	0.60	0.60	0.70	0.60	0.60	0.60
2023	5		0.60	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60	0.50
2024	6		0.60	0.50	0.60	0.60	0.60	0.60	0.40
2025	7		0.60	0.50	0.60	0.60	0.60	0.60	0.40
2026	8		0.60	0.40	0.60	0.60	0.60	0.60	0.30
2027	9		0.50	0.40	0.60	0.60	0.60	0.60	0.30
2028	10		0.50	0.30	0.60	0.60	0.50	0.60	0.20
2029	11		0.50	0.30	0.50	0.60	0.50	0.50	0.20
2030	12		0.50	0.20	0.50	0.60	0.50	0.50	0.20
2031	13		0.50	0.10	0.50	0.60	0.50	0.50	0.10
2032	14		0.40	0.10	0.50	0.50	0.50	0.50	0.10
2033	15		0.40	0.00	0.50	0.50	0.50	0.50	0.10
2034	16		0.40	-0.10	0.50	0.50	0.40	0.50	0.10
2035	17		0.40	-0.10	0.50	0.50	0.40	0.50	0.10
2036	18		0.36	-0.22	0.46	0.51	0.41	0.45	0.04
備考	推計式	$y=a+b \cdot x$	$y=a+b \cdot x+c \cdot x^2$	$y=a \cdot b^x$	$y=a \cdot x^b$	$y=a+b \cdot \sqrt{x}$	$y=a+b \cdot \log x$	$y=k / (1+a \cdot e^{-bx})$	
	定数 a	1.32000	-0.00004	1.52562	8.14876	1.88853	2.65336	0.00014	
	定数 b	-0.02000	0.07187	0.97518	-0.71426	-0.21334	-1.30884	-0.24849	
	定数 c		-0.00159						
	収束値 k							1	
	相関係数	0.35355	0.37932	0.34898	0.34208	0.35036	0.34704	0.37918	
	相関順位	3	1	5	7	4	6	2	
数値順位	4	7	1	1	4	1	6		



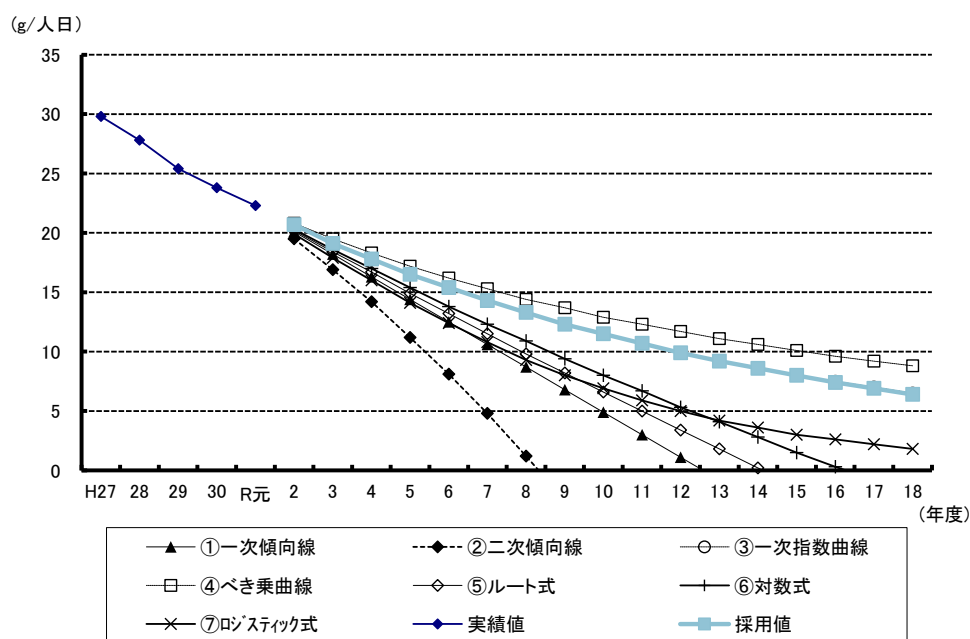
## 6 1人1日当たりの集団回収量の見込み

平成27（2015）年度以降の1人1日当たり排出量は減少傾向となっています。品目ごとの動向に違いがあると見込まれることから、品目ごとに予測値を推計し、その合計を集団回収の採用値とします。

### 1人1日当たりの集団回収量の見込み

(g/人日)

年度	実績値	推計値							採用値	
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式		
2015	H 27	29.80								
2016	28	27.80								
2017	29	25.40								
2018	30	23.80								
2019	R 元	22.30								
2020	2		20.10	19.50	20.60	20.80	20.20	20.30	19.90	20.70
2021	3		18.20	16.90	19.10	19.50	18.40	18.60	17.90	19.10
2022	4		16.30	14.20	17.80	18.30	16.70	17.00	16.00	17.80
2023	5		14.40	11.20	16.50	17.20	14.90	15.40	14.10	16.50
2024	6		12.50	8.10	15.40	16.20	13.20	13.80	12.40	15.40
2025	7		10.60	4.80	14.30	15.30	11.50	12.30	10.80	14.30
2026	8		8.70	1.20	13.30	14.40	9.80	10.90	9.30	13.30
2027	9		6.80	-2.50	12.30	13.70	8.20	9.40	8.00	12.30
2028	10		4.90	-6.40	11.50	12.90	6.60	8.00	6.90	11.50
2029	11		3.00	-10.50	10.70	12.30	5.00	6.70	5.90	10.70
2030	12		1.10	-14.70	9.90	11.70	3.40	5.30	5.00	9.90
2031	13		-0.80	-19.20	9.20	11.10	1.80	4.10	4.20	9.20
2032	14		-2.70	-23.90	8.60	10.60	0.20	2.80	3.60	8.60
2033	15		-4.60	-28.70	8.00	10.10	-1.30	1.50	3.00	8.00
2034	16		-6.50	-33.80	7.50	9.60	-2.80	0.30	2.60	7.40
2035	17		-8.40	-39.00	7.00	9.20	-4.30	-0.80	2.20	6.90
2036	18		-10.20	-44.50	6.50	8.80	-5.80	-2.00	1.80	6.40
備考	推計式	$y=a+b \cdot x$	$y=a+b \cdot x+c \cdot x^2$	$y=a \cdot b^x$	$y=a \cdot x^b$	$y=a+b \cdot \sqrt{x}$	$y=a+b \cdot \log x$	$y=k / (1+a \cdot e^{-bx})$		
	定数 a	80.92000	0.00075	216.54002	33369.48659	136.00945	211.26518	0.00239		
	定数 b	-1.90000	3.68297	0.92912	-2.12996	-20.46776	-126.85386	-0.19226		
	定数 c		-0.09607							
	収束値 k							42		
	相関係数	0.99576	0.98917	0.99825	0.99873	0.99652	0.99717	0.99350		
	相関順位	5	7	2	1	4	3	6		
数値順位	6	7	2	1	5	4	3			



① 1人1日当たりの紙・布類の予測結果

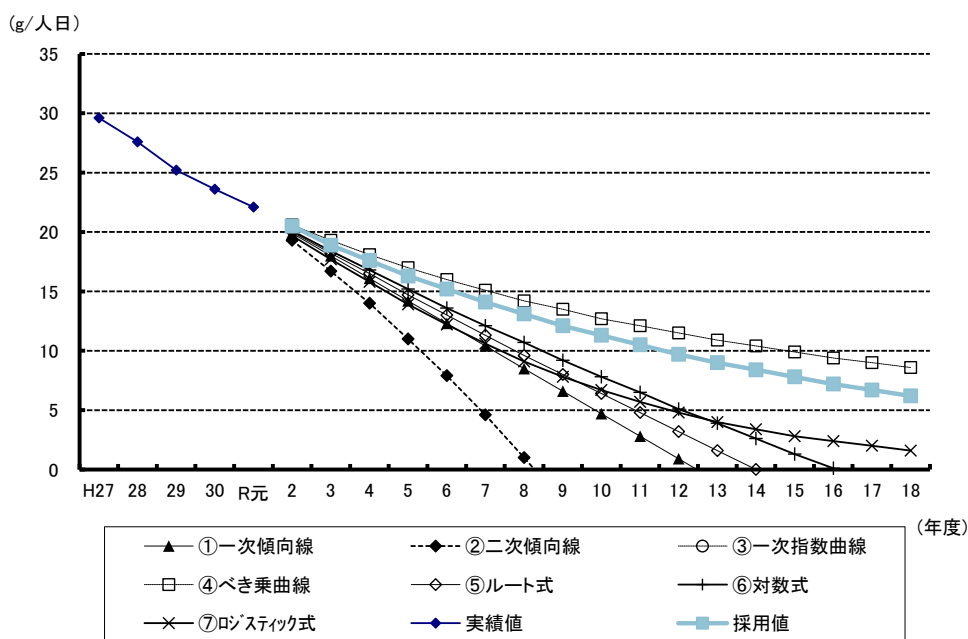
各推計式から推計した予測値は、いずれも減少傾向を示しました。

令和18(2036)年度時点における数値順位が最も高いものと最も低いものを除外した中で、相関順位が優位なものを採用値とします。

1人1日当たりの紙・布類の予測結果

(g/人日)

年度	実績値	推計値							採用値	
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式		
2015	H 27	29.60								
2016	28	27.60								
2017	29	25.20								
2018	30	23.60								
2019	R 元	22.10								
2020	2		19.90	19.30	20.40	20.60	20.00	20.10	19.70	20.50
2021	3		18.00	16.70	18.90	19.30	18.20	18.40	17.70	18.90
2022	4		16.10	14.00	17.60	18.10	16.50	16.80	15.80	17.60
2023	5		14.20	11.00	16.30	17.00	14.70	15.20	13.90	16.30
2024	6		12.30	7.90	15.20	16.00	13.00	13.60	12.20	15.20
2025	7		10.40	4.60	14.10	15.10	11.30	12.10	10.60	14.10
2026	8		8.50	1.00	13.10	14.20	9.60	10.70	9.10	13.10
2027	9		6.60	-2.70	12.10	13.50	8.00	9.20	7.80	12.10
2028	10		4.70	-6.60	11.30	12.70	6.40	7.80	6.70	11.30
2029	11		2.80	-10.70	10.50	12.10	4.80	6.50	5.70	10.50
2030	12		0.90	-14.90	9.70	11.50	3.20	5.10	4.80	9.70
2031	13		-1.00	-19.40	9.00	10.90	1.60	3.90	4.00	9.00
2032	14		-2.90	-24.10	8.40	10.40	0.00	2.60	3.40	8.40
2033	15		-4.80	-28.90	7.80	9.90	-1.50	1.30	2.80	7.80
2034	16		-6.70	-34.00	7.20	9.40	-3.00	0.10	2.40	7.20
2035	17		-8.60	-39.20	6.70	9.00	-4.50	-1.00	2.00	6.70
2036	18		-10.50	-44.70	6.20	8.60	-6.00	-2.20	1.60	6.20
備考	推計式	$y=a+b \cdot x$	$y=a+b \cdot x+c \cdot x^2$	$y=a \cdot b^x$	$y=a \cdot x^b$	$y=a+b \cdot \sqrt{x}$	$y=a+b \cdot \log x$	$y=k / (1+a \cdot e^{-bx})$		
	定数 a	80.72000	0.00075	218.46878	35022.46384	135.80945	211.06518	0.00236		
	定数 b	-1.90000	3.66915	0.92858	-2.14666	-20.46776	-126.85386	-0.19296		
	定数 c		-0.09583							
	収束値 k							42		
	相関係数	0.99576	0.98920	0.99827	0.99873	0.99652	0.99717	0.99353		
	相関順位	5	7	2	1	4	3	6		
数値順位	6	7	2	1	5	4	3			



## ② 1人1日当たりの金属類の予測結果

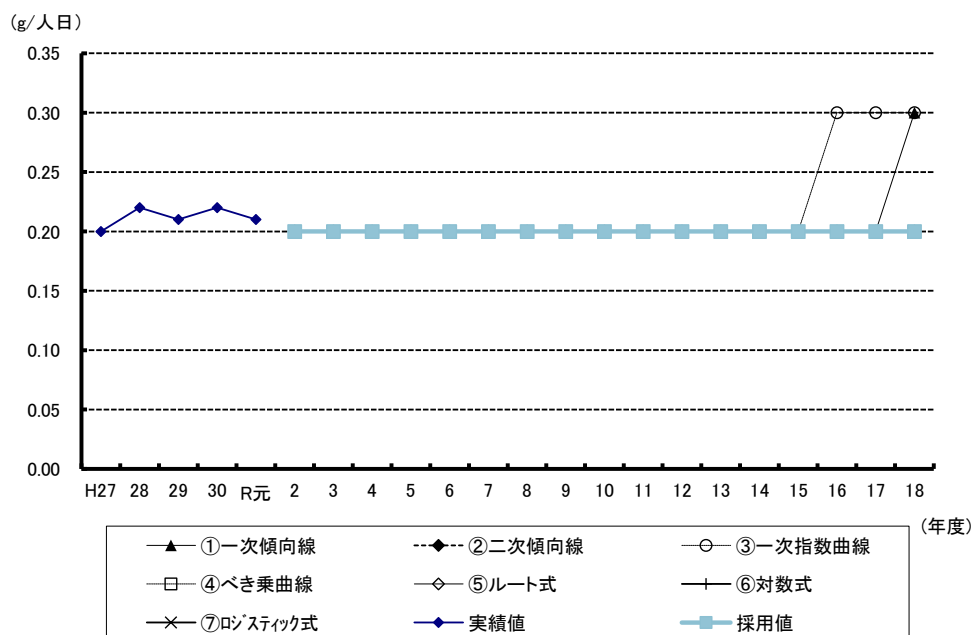
各推計式から推計した予測値は、一次傾向線及び一次指数曲線を除き横ばい傾向を示しました。過去5年の実績では毎年1人1日当たり0.2gの排出となっています。

今後も多少の増減はあるものの概ね同程度での推移が予測されることから、令和3（2021）年度以降は過去5年実績の平均値で推移していくものと予測します。

### 1人1日当たりの金属類の予測結果

(g/人日)

年度	実績値	推計値							採用値
		①一次傾向線	②二次傾向線	③一次指数曲線	④べき乗曲線	⑤ルート式	⑥対数式	⑦ロジスティック式	
2015	H 27	0.20							
2016	28	0.22							
2017	29	0.21							
2018	30	0.22							
2019	R 元	0.21							
2020	2		0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
2021	3		0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
2022	4		0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
2023	5		0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
2024	6		0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
2025	7		0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
2026	8		0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
2027	9		0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
2028	10		0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
2029	11		0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
2030	12		0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
2031	13		0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
2032	14		0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
2033	15		0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
2034	16		0.20	0.20	0.30	0.20	0.20	0.20	0.20
2035	17		0.20	0.20	0.30	0.20	0.20	0.20	0.20
2036	18		0.30	0.20	0.30	0.20	0.20	0.20	0.20
備考	推計式	$y=a+b\cdot x$	$y=a+b\cdot x+c\cdot x^2$	$y=a\cdot b^x$	$y=a\cdot x^b$	$y=a+b\cdot \sqrt{x}$	$y=a+b\cdot \log x$	$y=k/(1+a\cdot e^{-bx})$	
	定数 a	0.15400	-0.00001	0.15965	0.07926	0.09409	0.01033	0.99427	
	定数 b	0.00200	0.01278	1.00981	0.29208	0.02190	0.13795	0.08123	
	定数 c		-0.00019						
	収束値 k							0	
	相関係数	0.37796	0.45077	0.37427	0.38722	0.38450	0.39103	0.40314	
相関順位	6	1	7	4	5	3	2		
数値順位	1	3	1	3	3	3	3		









## 9 ごみ処理技術の動向

### 1. 可燃ごみの処理方式

可燃ごみの処理方式は、大きく分けて焼却、溶融、燃料化等に分類されます。これらの処理方式の概要は以下のとおりです。なお、各処理方式の技術概要については、次ページ以降に示します。

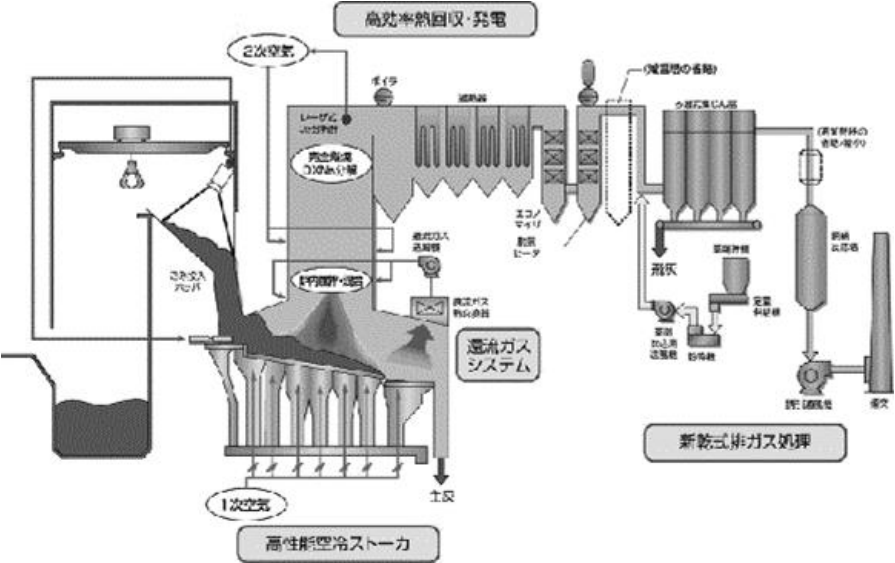
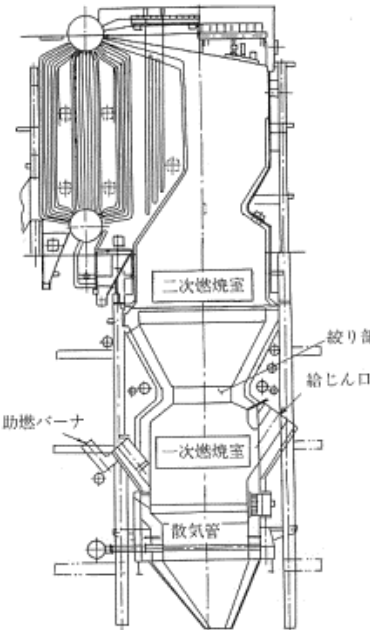
可燃ごみの代表的な処理方式

処理方式	技術名称	
焼却	ストーカ式+灰溶融	
	ストーカ式	
	流動床式	
	キルン式	
溶融	分離型	流動床式 キルン式
	一体型	シャフト炉式
燃料化	炭化	
	バイオガス化	
	固形燃料化(RDF)	
その他	たい肥化等	

処理方式の概要

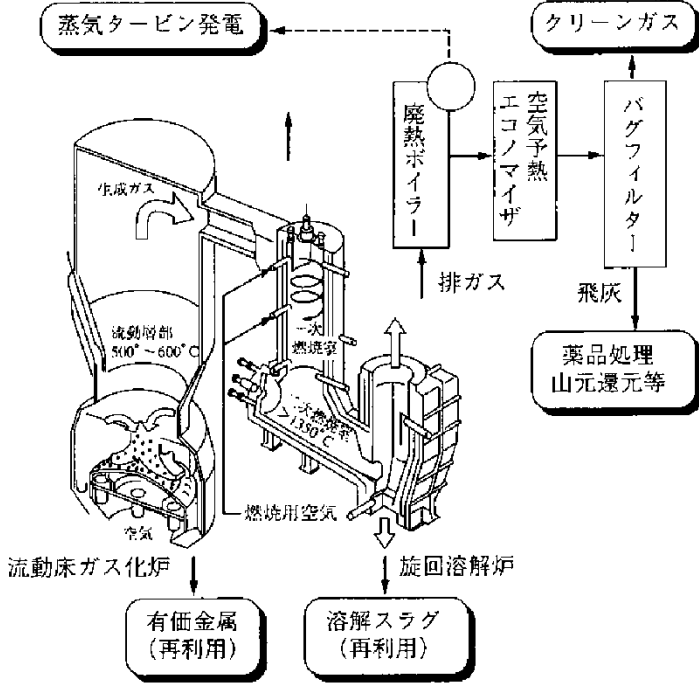

項目	概要
焼却	可燃ごみを酸素のある状況で燃焼させ焼却灰とする方法。 ダイオキシン類対策特別措置法により炉内を850℃以上とする必要がある。一部のストーカでは1,000℃以上の温度で処理する方式もある。 焼却灰を溶融する場合には灰溶融施設が必要となる。
溶融	可燃ごみを都市ガスや電気、コークス等により高温に熱し、スラグとする方法。 使用する燃料により、処理する温度域に違いがある。 〔温度域〕 ・都市ガス、電気 1,200～1,300℃程度 ・コークス 1,700～1,800℃程度
燃料化	可燃ごみ及びその一部を原料として燃料を生成し、化石燃料の代替燃料として活用する方法。 生成する燃料により様々な処理方式がある。
その他	一部の可燃ごみを対象とし、上記以外の方法で、資源化する処理方式。生ごみのたい肥化、木材や剪定枝のチップ化などがある。

焼却処理方式の技術概要

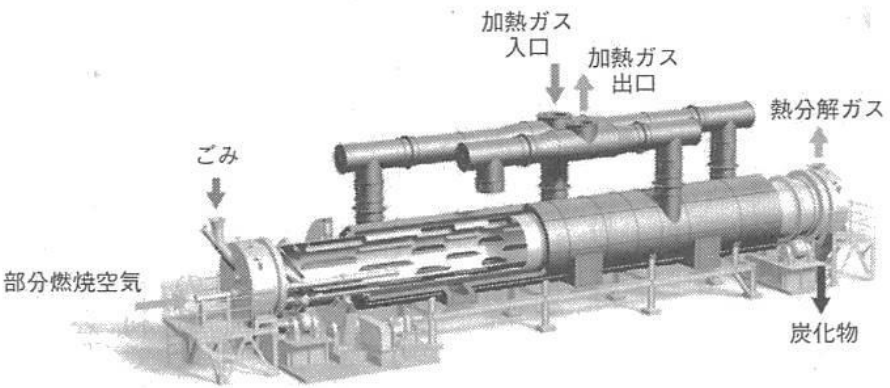
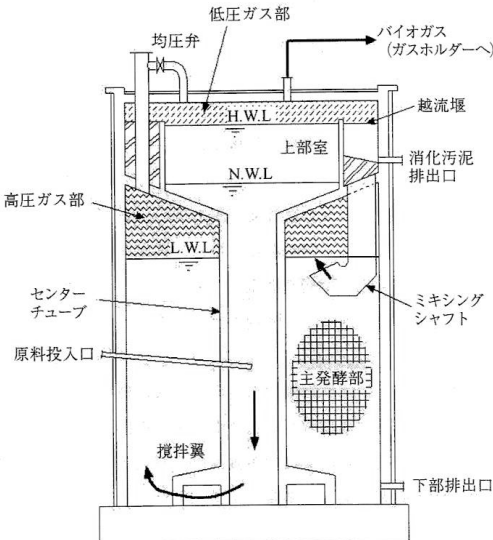
処理方式	概要
<p>ストーカ炉</p>	<p>廃棄物をストーカ(「火格子」と呼ばれるごみを燃やす場所。下から空気を送りこみ、ごみを燃えやすくするため、金属の棒を格子状に組み合わせてある)の上で転がし、焼却炉上部からの輻射熱で乾燥、加熱し、攪拌、移動しながら燃やす仕組みの焼却炉。国内の焼却炉で最も多く使われている方式。ストーカの形状やごみの炉内での移動方式により揺動式、階段式、回転式等いろいろな種類がある。</p>  <p>出典(図):環境省</p>
<p>流動床炉</p>	<p>塔状の炉内に多孔板又は多孔管があり、その上に「けい砂」による流動層を形成させ、下部から予熱空気を送り、上部からごみを投入し、炉内の流動状態で浮遊する高温の砂とごみを接触させることにより、焼却させる焼却炉。</p> <p>無機物は乾燥状態で排出される。燃烧残さのほとんどは、多量の飛灰として排出される。</p>  <p>出典(図):環境省</p>

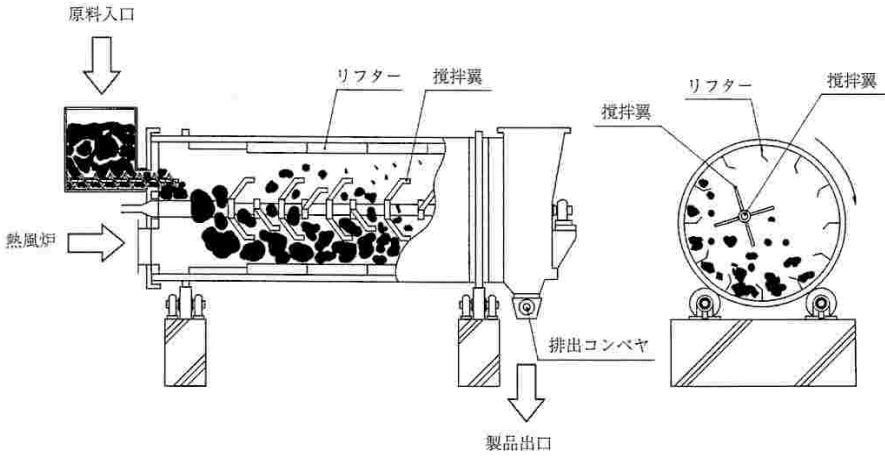
処理方式	概要
<p>キルン式</p>	<p>耐火材を内張りした横型円筒炉(ロータリーキルン)をゆっくりと回転させ、廃棄物を攪拌、焼却する焼却炉。円筒軸は排出側に向けて下り斜面を形成している。流動性のある泥状物や粉体、プラスチック等を含む災害廃棄物や産業廃棄物の処理に利用される。</p> <p>出典(図):環境省</p>
<p>灰溶融炉</p>	<p>都市ガスや電気などを熱源に「焼却灰」を高温で溶融する専用の炉であり、処理後にスラグ、メタルを回収する。</p> <p>(図は電気を使った電気抵抗式の灰溶融炉)</p> <p>出典(図):環境省</p>

溶融処理方式の技術概要

処理方式	概要
<p>分離型 (流動床式) (キルン式)</p>	<p>前段に流動床炉やロータリーキルンを設置し、ごみを500～600℃で蒸し焼きにして熱分解性ガスを発生させる。また、残った熱分解性残さを後段の溶融炉で1,200～1,300℃以上の高温で溶融させスラグ、メタルを回収する。 (図は流動床式のガス化溶融炉)</p>  <p>出典(図):環境省</p>
<p>一体型 (シャフト炉式)</p>	<p>可燃ごみにコークスや石灰石を混合し、1,700～1,800℃の熱により熱分解と溶融を一体で行う処理方式。処理対象物を燃焼・溶融させ、スラグ・メタルを回収する。</p>  <p>出典(図):環境省</p>

燃料化処理方式の技術概要

処理方式	概要
<p>炭化</p>	<p>ごみを無酸素状態において高温(500℃程度)で熱分解し、可燃性の熱分解ガスと熱分解残さ(チャー)に分離した後、熱分解残さから炭化物を回収する。熱分解ガスは、ガス燃焼設備で燃焼し炭化炉における熱源として利用する。炭化物は石炭に比べ、発熱量はやや低いが、脱塩処理の上でキルンや石炭焼きボイラ等の燃料として利用される。</p>  <p>出典(図):ごみ処理施設整備の計画・設計要領</p>
<p>バイオガス化方式</p>	<p>バイオガス化技術は、有機性廃棄物(生ごみ等)を対象として、嫌気発酵しバイオガスを得る技術である。バイオガスとは、有機性廃棄物を原料とする微生物利用のメタン発酵によって発生するメタン60%と二酸化炭素40%の混合ガスをいう。発酵方式は、発酵温度により中温発酵と高温発酵に、水分率により乾式と湿式に分類される。消化液、消化汚泥及び残さ(不燃物、金属類)が発生する。</p>  <p>出典(図):ごみ処理施設整備の計画・設計要領</p>

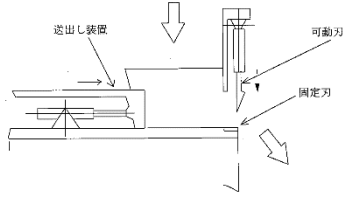
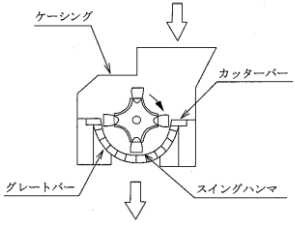
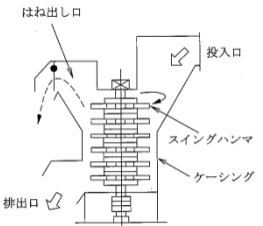
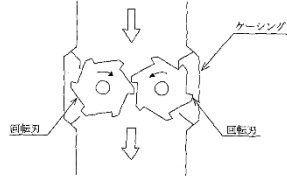
処理方式	概要
固形燃料化	<p>固形燃料化は、可燃ごみを燃料として取り扱える性状にする技術である。生成される固形燃料を総称してRDF (Refuse Derived Fuel)と呼ぶ。</p>  <p>出典(図):ごみ処理施設整備の計画・設計要領</p>



10 不燃・粗大ごみの処理方式

不燃・粗大ごみの処理方式は、大きく分けて切断式、回転式（高速、低速）の2種類に分かれます。これらの処理方式の概要を以下に示します。

不燃・粗大ごみの処理方式の概要

方式	概要
<p>切断式</p>	<p>切断刃でゴミを押し切る方式。可燃性の粗大ゴミ、家具、廃材、畳、ふとん等の軟質物、延性物の処理に適する。</p> <p>刃の動く方向によって縦型、横型及びこれらを組み合わせた複合型がある。</p> <p>破碎時の衝撃が少ないことから、爆発の危険性が少ない。</p> 
<p>回転式 (高速)</p>	<p>主として高速で回転するロータにハンマ状のものを取り付け、ケーシングに固定したバーや衝突板の間の衝撃、せん断、すりつぶし作用によって破碎する方式。ロータ軸の方向によって横型と縦型に分けられ、ハンマ等形式の違いにより様々な方式がある。</p> <p>固いものを破碎するのに適しており、繊維製品やマットレス等の柔らかいものは破碎しにくい。大容量の処理が可能である。破碎中の衝撃による粉じんや火花が爆発や火災の原因となることがある。</p> <p>固いものは細かく碎かれ、柔らかいものは粒度が大きくなるため、破碎した後、粒度や比重を利用した可燃性ゴミとプラスチック、紙類等の可燃性のゴミの選別、磁選機やアルミ選別機を利用した鉄くずや非鉄金属の回収ができる。</p>  
<p>回転式 (低速)</p>	<p>低速で回転する回転刃と固定刃又は2軸の回転刃の間でせん断する方式。軟質のプラスチックや繊維類の破碎に適しているが、大きな金属片やコンクリート塊の処理は困難である。特定の質のそろったゴミを資源回収等の目的で破碎するのに適する。</p> <p>低速で破碎処理を行うため、爆発、引火の危険性、粉じんの発生量等は比較的少ないが、対策は必要である。</p> 

出典（図）：ごみ処理施設整備の計画・設計要領

## 1.1 最終処分等の方式

ごみ処理の最終処分等の方式として、外部処理による資源化と埋立処分について、これらの方式の概要を以下に示します。

最終処分等の方式の概要

方式	概要
外部処理による 資源化	<p><b>【灰溶融】</b>            焼却灰を電気、燃料を用いて1,200℃以上の高温で溶かし、スラグとメタルに分離する。スラグは建設資材などに利用され、メタルは重機のカウンターウェイト等に利用される。</p>
	<p><b>【エコセメント化】</b>            焼却灰等を原料としてセメントを製造する。製造されたエコセメントはコンクリート製品等の建設資材に用いられる。</p>
	<p><b>【山元還元】</b>            亜鉛、鉛、銅等の非鉄金属を含む焼却灰や飛灰等を精錬し、非鉄金属を回収する。特に高濃度の非鉄金属を含む溶融飛灰の資源化に用いられる。</p>
	<p><b>【焼成】</b>            焼却灰等に焼成処理を行い、人口砂に加工する。加工した人口砂は路盤材や骨材等に利用される。</p>
埋立処分	<p>焼却灰や飛灰等を最終処分場に埋め立てて廃棄処分する。資源化やエネルギー回収が行えない状態の廃棄物を対象とする。最終処分場は埋立完了後も長期的に管理する必要がある。</p>

## 第2部 生活排水処理編



## 1 八千代市污水適正処理構想

平成29（2017）年度に策定した「八千代市污水適正処理構想」を以下に示します。

### 第1章 「八千代市污水適正処理構想」とは

「八千代市污水適正処理構想」とは、国及び千葉県が示す基本方針に基づき、市内全域を対象として効率的かつ効果的に污水处理施設整備を実施するために、公共下水道及び合併処理浄化槽による整備区域を設定するものです。

本構想は平成7年度に策定され、平成14年度及び平成22年度に見直しを実施しており、平成27年度に3度目の見直しを行いました。

污水適正処理構想は県内全市町村が一斉に見直しを実施し、平成29年3月に千葉県が策定した「千葉県全県域污水適正処理構想」に反映されています。

この度「千葉県全県域污水適正処理構想」が策定・公表されたことを受け、本市においても「八千代市污水適正処理構想」を策定・公表します。

### 第2章 構想見直しの理由

国は、各都道府県が策定している污水適正処理構想の見直しを徹底するとともに、早期の污水处理の概成を目指すため、平成26年1月に「持続的な污水处理システム構築に向けた都道府県構想策定マニュアル」を策定しました。

千葉県では、国のマニュアル策定を受けて「千葉県全県域污水適正処理構想」の見直しを行うため、平成27年3月に「全県域污水適正処理構想見直し市町村作業マニュアル」（以下、「県マニュアル」とします。）を策定しました。

千葉県が、「県マニュアル」の中で以下の4つのポイントを示して県内全市町村に構想見直しを要請したことを受け、本市においても「八千代市污水適正処理構想」の見直しを行いました。

#### ①時間軸の観点から考慮した見直し

時間軸の観点を盛り込み、中期（目標年次平成36年）での早期整備と共に、長期（目標年次平成46年）での持続的な污水处理システム構築を目指す。

#### ②10年程度での污水处理の「概成」を目指した見直し（中期目標）

中期的なスパンでは、污水处理施設の未整備区域について、污水处理施設間の経済比較を基本としつつ、10年程度を目途に污水处理の「概成」（地域のニーズ及び周辺環境への影響を踏まえ、各種污水处理施設の整備が概ね完了すること）を目指した、より弾力的な手法を検討する。

#### ③改築・更新や運営管理の観点を含めた見直し（長期目標）

長期的なスパン（20年程度）では、新規整備のみならず整備済み污水处理施設の改築・

更新や運営管理の観点を含める。

#### ④整備・運営管理手法の検討

整備・運営管理手法については、住民の意向等の地域のニーズを踏まえ、水環境の保全、施工性や用地確保の難易度、災害に対する脆弱性等、地域特性も総合的に勘案した上で、各地域における優先順位を十分検討しながら選定する。

### 第3章 汚水処理施設の種類

汚水処理施設の種類は、汚水を1箇所に集めて処理する集合処理と、各家庭ごとに汚水を処理する個別処理に大別されます。

#### ・集合処理

公共下水道や農業集落排水施設のように、複数の家庭からの汚水を管渠で集約し、終末処理場で処理します。

市街地や比較的家屋が密集した集落の汚水処理に適しており、整備に長い期間を要します。

#### ・個別処理

各家庭ごとに合併処理浄化槽を設置し汚水を処理します。

家屋がまばらな地区の汚水処理に適しており、短期間で整備が可能です。

### 第4章 八千代市における汚水処理施設整備の現状と課題

#### 1) 汚水処理施設整備の現状

本市では、印旛沼流域関連公共下水道による集合処理と、合併処理浄化槽による個別処理の2つの処理方法で汚水を処理しています。

平成26年度末時点での汚水処理人口普及率は96.9%（公共下水道91.7%、合併処理浄化槽5.2%）となっており、県平均85.8%、全国平均89.5%に比べてかなり高い水準となっています。

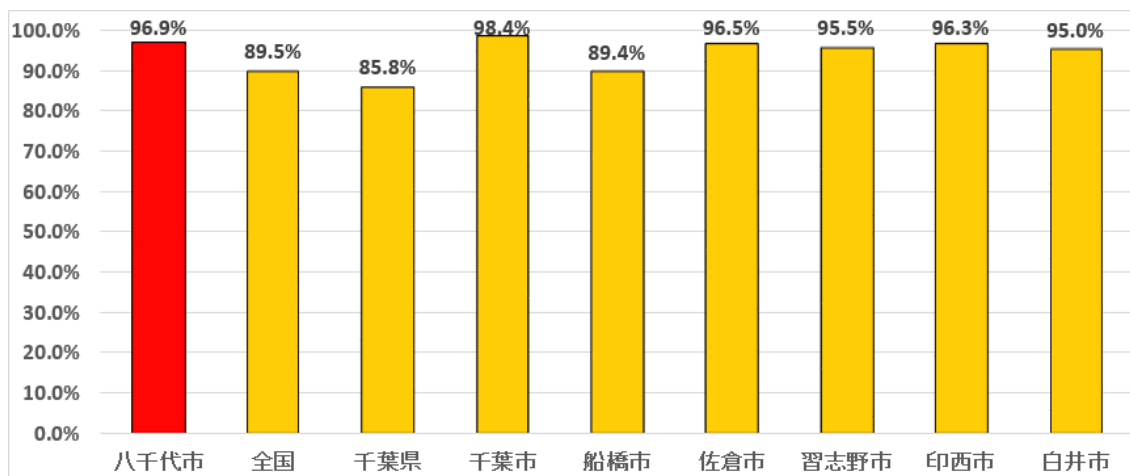


図1 八千代市汚水処理人口普及率の近隣市等との比較（平成26年度末）

## 2) 汚水処理施設整備の課題

### ①汚水処理施設の改築更新

市内で最も古い下水道管は、勝田台地区に昭和40年代前半に布設され、それ以降は昭和40年代後半から50年代までに多くの管渠が布設されています。

下水道管の標準耐用年数は50年とされており、これから増え続ける耐用年数を超える管渠について、更新・長寿命化対策の検討を行う必要があります。

これまでの取組みとしては、平成23年度に勝田台地区の既設管内部カメラ調査を行い、更新等の対策が必要と判断した管渠については、平成26年度から平成27年度にかけて対策工事を実施しました。

今後は、平成28年度に実施した八千代台地区の既設管内部カメラ調査の結果等に基づき、対策の時期・工法等を検討し、実施していく予定です。

また、北部中継ポンプ場においては老朽化が進んでおり、現在は機械設備の修繕を行いながら運転を行っているため、更新工事が必要となっています。

### ※下水道施設の更新・長寿命化対策について

下水道施設の更新・長寿命化対策の内容は、それぞれ以下のとおりです。

#### ・更新

管 渠 の 場 合…既存の管渠を新しい管渠と取替えることで、所定の耐用年数を新たに確保するもの（“布設替え”とといいます）。

ポンプ場の場合…汚水ポンプや脱臭装置等の各設備を新しく取替えることで、所定の耐用年数を新たに確保するもの。

#### ・長寿命化対策

管 渠 の 場 合…既存の管渠の内面を樹脂等で被覆し補強することにより、所定の耐用年数を新たに確保するもの（“更生工法”とといいます）。

ポンプ場の場合…各設備の古くなった部品を交換することで、所定の耐用年数を新たに確保するもの。

老朽化した下水道施設への対策としてどちらの手法を選定するかは、既設管内部カメラ調査や目視等による劣化状況の確認結果、現場の施工条件、経済性等を踏まえ、総合的に判断することになります。

## ②厳しい財政状況

平成27年7月の下水道使用料改定により、今後の財務状況は改善が見込まれています。

しかし、今後の人口減少や将来の汚水処理施設の改築更新需要等を考慮し、下水道整備への投資効果をこれまで以上に慎重に検討する必要があります。



## 第5章 構想見直しの手順

「八千代市污水適正処理構想」は、「千葉県全区域污水適正処理構想」との整合を図るため、千葉県と協同で見直しを行いました。

構想見直しの手順は、次の「図2」に示すとおりです。

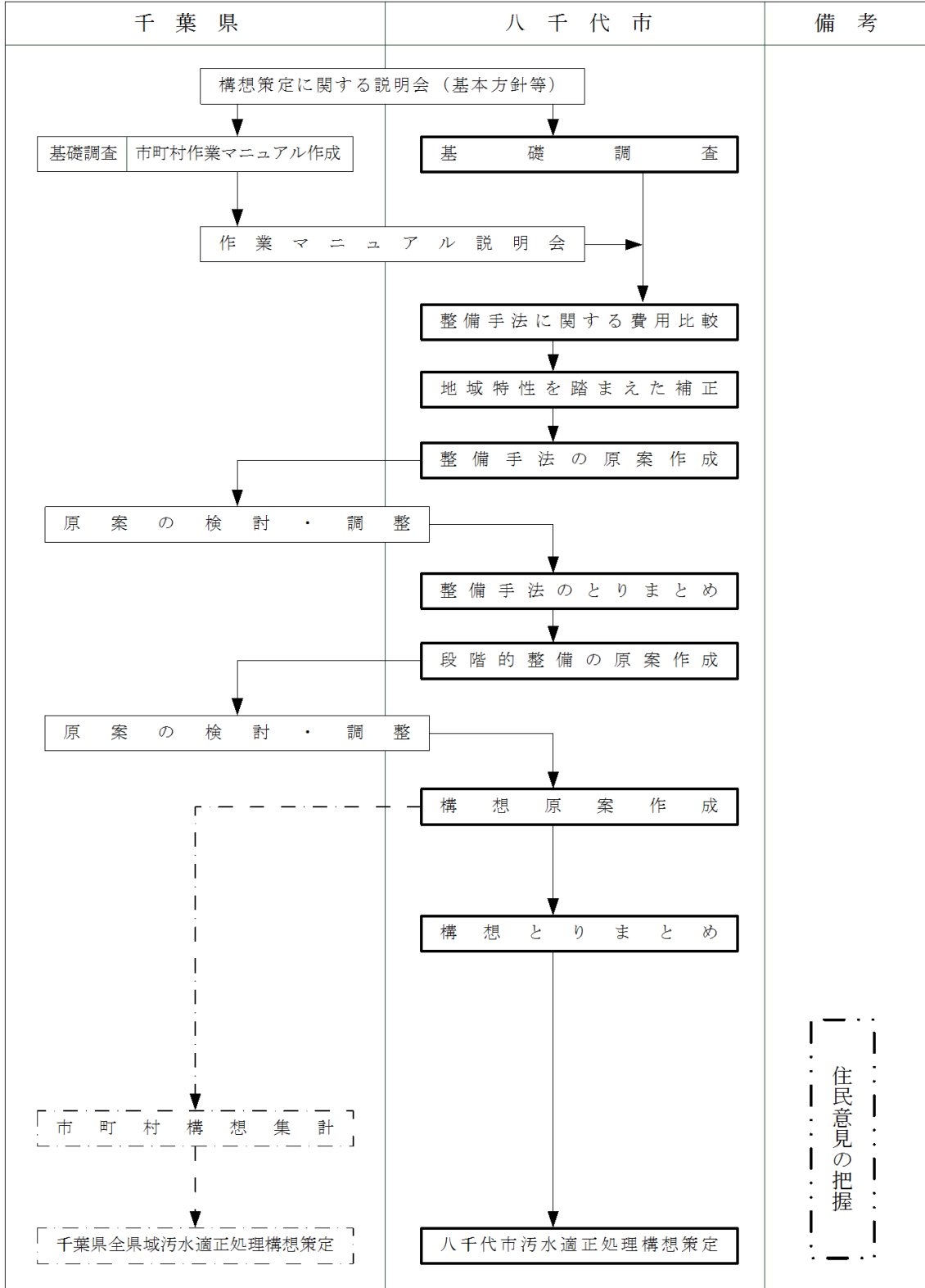


図2 八千代市污水適正処理構想見直しの手順

## 第6章 構想見直しの結果

今回の構想見直しについて、国及び千葉県が定めた基本方針には新たに時間軸等の観点盛り込まれ、今後10年程度を目処に汚水処理の概成が求められています。

また、第4章でも述べたとおり、今後の人口減少や汚水処理施設の改築更新需要等を見込んだ下水道整備を検討していく必要があります。

以上のことも踏まえ、「県マニュアル」に基づき構想の見直しを行った結果、本市における公共下水道による集合処理区域は原則として市街化区域のみとし、整備までに長い期間を要する市街化調整区域については、短期間で整備可能な合併処理浄化槽による個別処理区域に決めました（既整備区域、開発予定区域等を除く）。

構想見直しの結果は、次の「表1」、「図3」及び「図4」に示すとおりになります。

表1 八千代市污水適正処理構想見直し結果

	平成26年度末 実績		平成36年度末 中期目標		平成46年度末 長期目標	
	処理人口 (人)	普及率 (%)	処理人口 (人)	普及率 (%)	処理人口 (人)	普及率 (%)
公共下水道	178,382	91.7	188,665	92.5	195,748	98.4
合併処理浄化槽	10,006	5.2	13,097	6.4	3,252	1.6
小計	188,388	96.9	201,762	98.9	199,000	100.0
未処理地区	6,050		2,238		0	
合計	194,438		204,000		199,000	

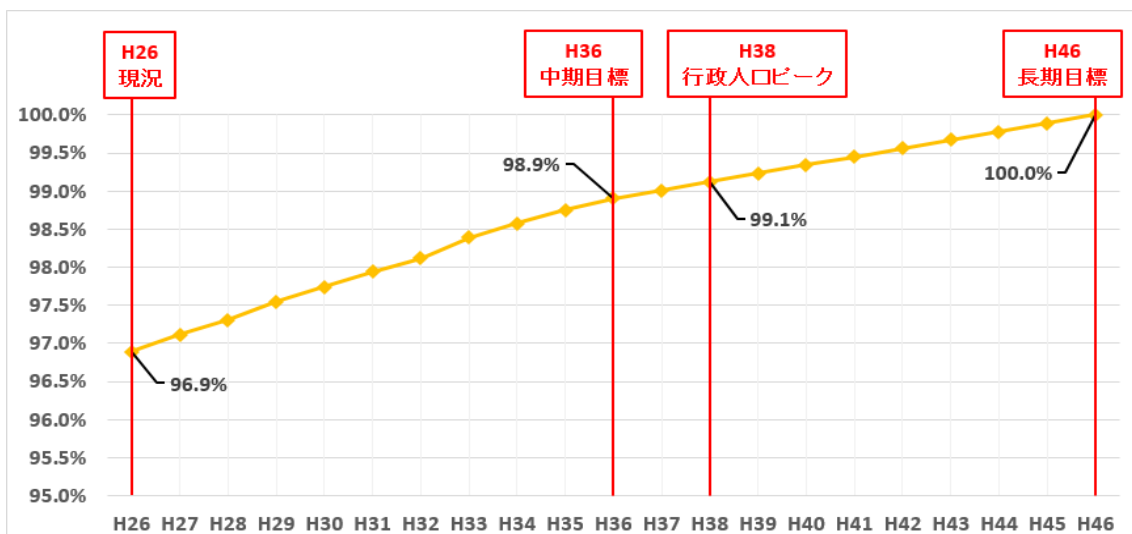


図3 八千代市污水処理人口普及率の推計結果 (各年度末)

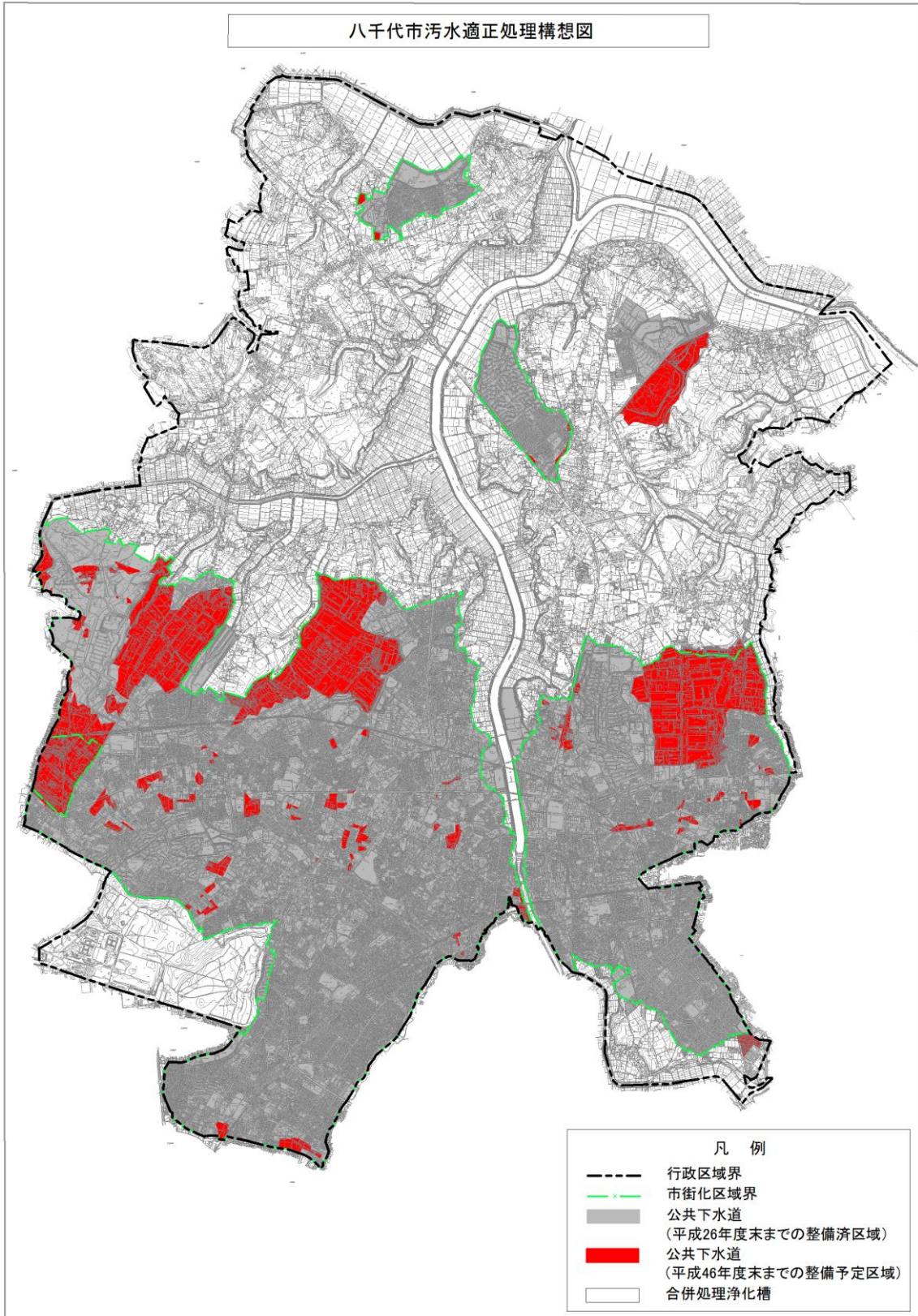


図4 八千代市污水適正処理構想図

## 2 し尿汲み取り量及び浄化槽汚泥量の原単位

### し尿汲み取り量及び浄化槽汚泥量の原単位

区分	人口			排出量				原単位		
	合併処理 浄化槽	単独処理 浄化槽	汲み取り	合併処理 浄化槽汚泥	単独処理 浄化槽汚泥	浄化槽汚泥 合計	し尿	合併処理 浄化槽汚泥	単独処理 浄化槽汚泥	し尿
	(人)	(人)	(人)	(kl/年)	(kl/年)	(kl/年)	(kl/年)	(L/人日)	(L/人日)	(L/人日)
H27	10,469	6,002	1,040	6,853	2,455	9,308	1,501	1.79	1.12	3.94
H28	10,557	5,903	852	7,195	2,514	9,709	1,443	1.87	1.17	4.64
H29	10,504	5,808	814	7,169	2,477	9,646	1,291	1.87	1.17	4.35
H30	10,704	5,585	682	7,356	2,399	9,755	1,152	1.88	1.18	4.63
R元	10,894	5,263	621	7,498	2,264	9,762	1,434	1.88	1.18	6.31

※合併処理浄化槽汚泥の排出量は、以下の方法で算出。

$$\text{合併処理浄化槽汚泥量} = \text{浄化槽汚泥合計排出量} \times \text{合併処理浄化槽人口} \times \text{合併単独比(1.6)} \\ \div (\text{合併処理浄化槽人口} \times \text{合併単独比} + \text{単独処理浄化槽人口})$$

※合併単独比は、汚泥再生処理センター等施設整備の計画・設計要領の原単位を使用し算出。

$$1.2\text{L/人日(合併処理浄化槽汚泥の原単位)} \div 0.75\text{L/人日(単独処理浄化槽汚泥の原単位)} = 1.6$$

※単独処理浄化槽汚泥の排出量は、浄化槽汚泥合計から合併処理浄化槽汚泥の排出量を差し引きし算出。

### 3 生活排水処理形態別人口の予測

区分	単位	実績					見込	予測															
		H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
行政区域内人口	人	195,371	196,144	197,723	198,965	200,275	202,133	203,249	204,191	204,590	205,041	204,931	204,631	204,534	203,921	203,404	202,726	202,019	201,247	200,455	199,556	198,685	197,784
処理人口(自家処理を除く人口)	人	195,371	196,144	197,723	198,965	200,275	202,133	203,249	204,191	204,590	205,041	204,931	204,631	204,534	203,921	203,404	202,726	202,019	201,247	200,455	199,556	198,685	197,784
生活排水処理人口	人	188,329	189,389	191,101	192,698	194,391	197,514	199,223	200,604	201,450	202,301	202,462	202,434	202,610	202,274	202,034	201,631	201,200	200,701	200,184	199,556	198,685	197,784
	%	96.4	96.6	96.7	96.9	97.1	97.7	98.0	98.2	98.5	98.7	98.8	98.9	99.1	99.2	99.3	99.5	99.6	99.7	99.9	100.0	100.0	100.0
公共下水道人口	人	177,860	178,832	180,597	181,994	183,497	185,220	186,696	187,748	188,298	188,815	190,037	191,054	192,245	192,926	193,696	194,311	194,898	195,417	195,916	196,295	195,438	194,552
集落排水処理人口	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コミュニティ・プラント人口	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合併処理浄化槽人口	人	10,469	10,557	10,504	10,704	10,894	12,294	12,527	12,856	13,152	13,486	12,425	11,380	10,365	9,348	8,338	7,320	6,302	5,284	4,268	3,261	3,247	3,232
生活雑排水未処理人口	人	7,042	6,755	6,622	6,267	5,884	4,619	4,026	3,587	3,140	2,740	2,469	2,197	1,924	1,647	1,370	1,095	819	546	271	0	0	0
	%	3.6	3.4	3.3	3.1	2.9	2.3	2.0	1.8	1.5	1.3	1.2	1.1	0.9	0.8	0.7	0.5	0.4	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0
単独処理浄化槽人口	人	6,002	5,903	5,808	5,585	5,263	4,054	3,534	3,149	2,756	2,405	2,167	1,928	1,689	1,446	1,203	961	719	479	238	0	0	0
汲み取り人口	人	1,040	852	814	682	621	565	492	438	384	335	302	269	235	201	167	134	100	67	33	0	0	0

### 4 し尿汲み取り量及び浄化槽汚泥量の予測

区分	単位	実績					見込	予測																原単位
		H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	
し尿収集量	kl/年	1,501	1,443	1,291	1,152	1,434	985	857	763	671	584	526	469	411	350	291	233	175	117	58	0	0	0	4.77
浄化槽汚泥量	kl/年	9,308	9,709	9,646	9,755	9,762	10,059	9,996	10,057	10,118	10,168	9,347	8,537	7,768	6,954	6,166	5,372	4,592	3,787	2,995	2,212	2,208	2,192	
合併処理浄化槽汚泥量	kl/年	6,853	7,195	7,169	7,356	7,498	8,337	8,495	8,719	8,944	9,146	8,426	7,718	7,048	6,340	5,655	4,964	4,286	3,583	2,894	2,212	2,208	2,192	1.86
単独処理浄化槽汚泥量	kl/年	2,455	2,514	2,477	2,399	2,264	1,722	1,501	1,338	1,174	1,022	921	819	720	614	511	408	306	204	101	0	0	0	1.16
処理量	kl/年	10,809	11,152	10,937	10,907	11,196	11,044	10,853	10,820	10,789	10,752	9,873	9,006	8,179	7,304	6,457	5,605	4,767	3,904	3,053	2,212	2,208	2,192	
年間日数	日	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	365	365	366	365	

